

厚生労働大臣 殿

令和 7 年 10 月 3 日

開設者名 学校法人 東海大学
理事長 松前 義昭

東海大学医学部付属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒151-8677 東京都渋谷区富ヶ谷二丁目10番2号
氏名	学校法人 東海大学 理事長 松前義昭

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

東海大学医学部付属病院

3 所在の場所

〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋143
電話 (0463) 93 - 1121

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

☒	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
☐	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科						有	
内科と組み合わせた診療科名等							
☐	1呼吸器内科	☐	2消化器内科	☐	3循環器内科		4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			☐	11リウマチ科
診療実績							
東洋医学（脳神経内科）、遺伝子診療科（産科・婦人科）							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						無	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科		6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科		11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	血液腫瘍内科	2	腎内分泌代謝内科	3	移植外科	4	緩和ケア内科	5	形成外科
6	リハビリテーション科	7	臨床検査科	8	病理診断科	9	腎泌尿器科	10	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
11	脳神経内科	12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0	0	0	0	804	804

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	534	24.6	558.6
歯科医師	19	3.2	22.2
薬剤師	74	4.5	78.5
保健師	0	0	0
助産師	24	5.5	29.5
看護師	992	81.4	1,073.4
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	10	0.6	10.6
管理栄養士	19	0	19

職種	員数
看護補助者	193
理学療法士	35
作業療法士	13
視能訓練士	12
義肢装具士	0
臨床工学士	46
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	80

職種		員数
診療エックス線技師		0
臨床検査	臨床検査技師	149
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師		0
医療社会事業従事者		16
その他の技術員		17
事務職員		183
その他の職員		50

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	75	眼科専門医	10
外科専門医	56	耳鼻咽喉科専門医	20
精神科専門医	10	放射線科専門医	21
小児科専門医	22	脳神経外科専門医	14
皮膚科専門医	9	整形外科専門医	26
泌尿器科専門医	11	麻酔科専門医	9
産婦人科専門医	29	救急科専門医	18
		合計	330

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (渡辺 雅彦) 任命年月日 令和 31 年 4 月 1 日

平成28年度IC記載状況確認分科会座長・IC管理責任者
平成29年度IC記載状況確認分科会座長・IC管理責任者
平成29年度高難度新規医療技術評価委員会委員長、未承認新規医薬品等評価委員会委員長
平成29年度東海大学医学部付属病院医療安全に係る事象の病院長報告構成員
平成30年度IC記載状況確認分科会座長・IC管理責任者
平成30年度高難度新規医療技術評価委員会委員長、未承認新規医薬品等評価委員会委員長
平成30年度東海大学医学部付属病院医療安全に係る事象の病院長報告構成員
平成31年(令和元年)度医療安全管理委員会オブザーバー
令和2年度医療安全管理委員会オブザーバー
令和3年度医療安全管理委員会オブザーバー
令和4年度医療安全管理委員会オブザーバー
令和5年度医療安全管理委員会オブザーバー
令和6年度医療安全管理委員会オブザーバー
令和7年度医療安全管理委員会オブザーバー

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外		歯科等		合計
1日当たり平均入院患者数	770.7	人	18.4	人	789.1 人
1日当たり平均外来患者数	2,283.90	人	115.1	人	2,399.00 人
1日当たり平均調剤数	1,228.90				剤
必要医師数	210.5				人
必要歯科医師数	2.3				人
必要薬剤師数	26.4				人
必要(准)看護師数	474.6				人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	710.74 m ²	鉄筋コンクリート（免震）	病床数	32 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	〔固定式の場合〕 床面積		159.36 m ²	病床数		13 床
	〔移動式の場合〕 台数		台			
医薬品情報管理室	〔専用室の場合〕 床面積		82.8 m ²			
	〔共用室の場合〕 共用する室名					
化学検査室	375.52 m ²	鉄筋コンクリート（免震）	（主な設備） LABOSPECT 008α（日立）、XR-9000（sysmex）			
細菌検査室	261.64 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	（主な設備） MALDI Biotyper Sirius（Bruker）			
病理検査室	284.68 m ²	鉄筋コンクリート（免震）	（主な設備） プッシュプル換気装置付流台、切出台、自動染色装置、自動包埋装置			
病理解剖室	77.18 m ²	鉄筋コンクリート造	（主な設備） 解剖台、切り出し台			
研究室	1152.96 m ²	鉄筋コンクリート造	（主な設備）			
講義室	1256.16 m ²	鉄筋コンクリート造	室数	31 室	収容定員	2638 人
図書室	2099.5 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	室数	1 室	蔵書数	90,000 冊程度

- （注） 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	88.7 %	逆紹介率	95.6 %
算出根拠	A: 紹介患者の数		27,468 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		32,493 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,651 人
	D: 初診の患者の数		33,974 人

- （注） 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
長谷川 奉延	慶應義塾大学名誉教授 (医師) 柏たなか病院・病院長	○	慶應義塾大学病院医療安全管理部長、医療安全管理責任者を経験し、医療安全管理に長けている者。また、医療安全や質の向上を目的に医療安全文化の構築を推進する者	無	1
内嶋 順一	神奈川県弁護士会（弁護士）		患者さん側の立場に立った弁護をされている者	無	1
山口 育子	認定NPO法人ささえあい医療人権センター COML理事長		患者と医療者の協働の実現により医療現場により良いコミュニケーションを築く活動をされている者	無	2
石井 裕	伊勢原市保健福祉部長		行政としての立場及び一般の立場の代表者	無	2
安田 聖栄	医療法人社団あんしん会四谷メディカル キューブ理事長（医師） （元東海大学医学部教授、前東海大学医学部 付属病院副院長）		東海大学医学部付属病院の医療安全統括者を経験し、医療安全管理に長けている者	有	1
鈴木 孝良	東海大学医学部付属八王子病院 副院長・医療安全対策部長（医師）		東海大学医学部付属八王子病院の医療安全統括者であり、医療安全管理に長けている者。また付属病院機関の医療安全に係る責任者の代表者	有	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 当院ホームページに委員名簿、委員の選定理由を掲載 議事録は監査委員会終了後に掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養	14人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	1
取り扱い患者数の合計(人)	14人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のカペシタビン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法 小腸腺がん(ステージがⅠ期、Ⅱ期又はⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	0人
腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	0人
自己軟骨細胞シートによる軟骨再生治療 変形性膝関節症(軟骨欠損を伴うものであって、高位脛骨骨切り術の適応となるものに限る。)	2人
テネクテプラーゼ静脈内投与療法 脳梗塞(発症から四・五時間以内のものに限る。)	0人
集束超音波治療器を用いた前立腺がん局所焼灼・凝固療法 前立腺がん(限局性のものに限る。)	47人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	5
扱い患者数の合計(人)	49人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	胸腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	56
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における腎部分切除手術(適応:腎癌、腎細胞癌)			
医療技術名	腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における腎盂形成手術(適応:腎盂尿管移行部狭窄症)			
医療技術名	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	99
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における前立腺悪性腫瘍手術			
医療技術名	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における膀胱悪性腫瘍手術			
医療技術名	腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における仙骨腫固定術			
医療技術名	腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における尿管悪性腫瘍手術			
医療技術名	腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いて行った場合)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における副腎摘出術			
医療技術名	腹腔鏡下副腎髓質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における副腎髓質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)			
医療技術名	腹腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における良性縦隔腫瘍手術			
医療技術名	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除、肺葉切除・1肺葉を超えるもの)(内視	取扱患者数	43
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における肺悪性腫瘍手術			
医療技術名	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いて行った場合)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における縦隔悪性腫瘍手術			
医療技術名	胸腔鏡下肺切除術(区域切除、肺葉切除・1肺葉を超えるもの)(内視鏡手術	取扱患者数	3

当該医療技術の概要 da Vinci支援下における肺切除術			
医療技術名	腹腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	31
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における食道悪性腫瘍手術			
医療技術名	腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における胃切除術			
医療技術名	腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における噴門側胃切除術			
医療技術名	腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における胃全摘術			
医療技術名	腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	22
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における直腸切除・切断術			
医療技術名	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いて行った場	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における腓体尾部腫瘍切除術			
医療技術名	腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いて行った場合	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における腓頭部腫瘍切除術			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いて行った場合)	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における肝切除術			
医療技術名	腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における膣式子宮全摘術			
医療技術名	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)(内視鏡手術用支援機器	取扱患者数	21
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における子宮悪性腫瘍手術			
医療技術名	腹腔鏡下咽頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における咽頭悪性腫瘍手術			

医療技術名	経カテーテル的大動脈弁置換術	取扱患者数	222
当該医療技術の概要 超高齢者、重度基礎疾患、胸部大動脈高度石灰化を有するなど、人工心肺を用いた通常の開胸手術に耐えられない症例にたいし、人工心肺を用いず鼠径部の動脈を経由し経カテーテル的に行う大動脈弁置換術。			
医療技術名	人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 Mako支援下における人工股関節置換術			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	25
取扱い患者数の合計(人)	650

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	10	56	IgA 腎症	488
2	筋萎縮性側索硬化症	87	57	多発性嚢胞腎	330
3	脊髄性筋萎縮症	87	58	黄色靱帯骨化症	181
4	原発性側索硬化症	77	59	後縦靱帯骨化症	181
5	進行性核上性麻痺	16	60	広範脊柱管狭窄症	14
6	パーキンソン病	1310	61	特発性大腿骨頭壊死症	141
7	大脳皮質基底核変性症	12	62	下垂体性ADH分泌異常症	260
8	ハンチントン病	14	63	下垂体性TSH分泌亢進症	12
9	重症筋無力症	938	64	下垂体性PRL分泌亢進症	77
10	多発性硬化症／視神経脊髄炎	924	65	クッシング病	126
11	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	188	66	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	214
12	封入体筋炎	701	67	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	187
13	多系統萎縮症	59	68	下垂体前葉機能低下症	565
14	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	352	69	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	6482
15	ライソゾーム病	43	70	甲状腺ホルモン不応症	7
16	副腎白質ジストロフィー	71	71	先天性副腎皮質酵素欠損症	43
17	ミトコンドリア病	89	72	アジソン病	78
18	もやもや病	291	73	サルコイドーシス	308
19	プリオン病	1	74	特発性間質性肺炎	884
20	HTLV-1関連脊髄症	19	75	肺動脈性肺高血圧症	745
21	特発性基底核石灰化症	8	76	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	745
22	全身性アミロイドーシス	179	77	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	161
23	ウルリッヒ病	22	78	リンパ脈管筋腫症	30
24	遠位型ミオパチー	22	79	網膜色素変性症	69
25	ベスレムミオパチー	22	80	バッド・キアリ症候群	17
26	シュワルツ・ヤンペル症候群	55	81	特発性門脈圧亢進症	20
27	神経線維腫症	68	82	原発性胆汁性肝硬変	610
28	天疱瘡	88	83	原発性硬化性胆管炎	155
29	膿疱性乾癬(汎発型)	71	84	自己免疫性肝炎	340
30	スティーヴンス・ジョンソン症候群	14	85	クローン病	1092
31	高安動脈炎	202	86	潰瘍性大腸炎	1924
32	巨細胞性動脈炎	67	87	好酸球性消化管疾患	41
33	結節性多発動脈炎	299	88	ルビンシュタイン・ティビ症候群	26
34	顕微鏡的多発血管炎	299	89	CFC症候群	16
35	多発血管炎性肉芽腫症	411	90	コステロ症候群	1
36	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	386	91	チャージ症候群	16
37	悪性関節リウマチ	76	92	クリオピリン関連周期熱症候群	3
38	バージャー病	380	93	TNF受容体関連周期性症候群	3
39	原発性抗リン脂質抗体症候群	457	94	非典型溶血性尿毒症症候群	5
40	全身性エリテマトーデス	5295	95	ブラウ症候群	3
41	皮膚筋炎／多発性筋炎	1834	96	筋ジストロフィー	68
42	全身性強皮症	798	97	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	55
43	混合性結合組織病	1358	98	遺伝性周期性四肢麻痺	15
44	シェーグレン症候群	2587	99	脊髄空洞症	4
45	成人スチル病	177	100	アイザックス症候群	55
46	再発性多発軟骨炎	53	101	遺伝性ジストニア	1
47	ベーチェット病	333	102	神経フェリチン症	8
48	特発性拡張型心筋症	155	103	脳表ヘモジデリン沈着症	8
49	肥大型心筋症	227	104	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	3
50	再生不良性貧血	523	105	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	3
51	自己免疫性溶血性貧血	247	106	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	25
52	発作性夜間ヘモグロビン尿症	93	107	ペリー症候群	8
53	特発性血小板減少性紫斑病	755	108	ビッカースタッフ脳幹脳炎	1
54	血栓性血小板減少性紫斑病	14	109	痙攣重積型(二相性)急性脳症	51
55	原発性免疫不全症候群	975	110	アレキサンダー病	2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	先天性核上性球麻痺	77	166	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	223
112	アイカルディ症候群	16	167	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	237
113	神経細胞移動異常症	16	168	グルタル酸血症2型	71
114	ドラベ症候群	13	169	尿素サイクル異常症	164
115	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	547	170	シトステロール血症	6482
116	ミオクロニー欠伸てんかん	13	171	家族性地中海熱	37
117	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	13	172	高I g D症候群	3
118	レノックス・ガストー症候群	13	173	中條・西村症候群	3
119	ウェスト症候群	13	174	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・ アクネ症候群	3
120	大田原症候群	13	175	慢性再発性多発性骨髄炎	3
121	早期ミオクロニー脳症	13	176	強直性脊椎炎	90
122	P C D H19関連症候群	13	177	巨大静脈奇形（頸部口腔咽頭びまん性病変）	7
123	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	181	178	巨大動静脈奇形（頸部顔面又は四肢病変）	5
124	結節性硬化症	25	179	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	26
125	色素性乾皮症	1	180	後天性赤芽球ろう	83
126	先天性魚鱗癬	14	181	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	79
127	家族性良性慢性天疱瘡	36	182	ファンconi貧血	79
128	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	111	183	エプスタイン症候群	201
129	特発性後天性全身性無汗症	2	184	自己免疫性出血病XIII	7
130	弾性線維性仮性黄色腫	36	185	非特異性多発性小腸潰瘍症	46
131	マルファン症候群	9	186	ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸型）	10
132	エーラス・ダンロス症候群	4	187	乳幼児肝巨大血管腫	134
133	メンケス病	15	188	胆道閉鎖症	1
134	オクシピタル・ホーン症候群	15	189	アラジール症候群	2
135	ウィルソン病	15	190	遺伝性腓炎	596
136	低ホスファターゼ症	223	191	I g G 4 関連疾患	650
137	VATER症候群	26	192	黄斑ジストロフィー	69
138	ウィリアムズ症候群	4	193	レーベル遺伝性視神経症	1
139	クルーゾン症候群	4	194	アッシャー症候群	16
140	ロスムンド・トムソン症候群	36	195	若年発症型両側性感音難聴	71
141	コケイン症候群	1	196	遅発性内リンパ水腫	90
142	ブラダー・ウィリ症候群	1	197	好酸球性副鼻腔炎	198
143	ヌーナン症候群	1	198	カナバン病	2
144	スミス・マギニス症候群	4	199	進行性白質脳症	393
145	22q11. 2欠失症候群	4	200	進行性ミオクロームてんかん	5
146	単心室症	1	201	先天異常症候群	17
147	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	4	202	左肺動脈右肺動脈起始症	6
148	ファロー四徴症	4	203	ネイルパテラ症候群（爪・膝蓋骨症候群）/LMX1B関連腎症	26
149	エプスタイン病	11	204	カルニチン回路異常症	71
150	アルポート症候群	16	205	三頭酵素欠損症	71
151	急速進行性糸球体腎炎	901	206	シトリン欠損症	164
152	抗糸球体基底膜腎炎	99	207	β -ケトチオラーゼ欠損症	71
153	一次性ネフローゼ症候群	1295	208	遺伝性自己炎症疾患	3
154	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	7	209	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る）	1854
155	紫斑病性腎炎	48	210	前眼部形成異常	1
156	オスラー病	26	211	先天性気管狭窄症	2
157	閉塞性細気管支炎	83	212	特発性多中心性キャッスルマン病	142
158	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	1	213	線毛機能不全症候群（カルタゲナー症候群を含む）	4
159	肺胞低換気症候群	18	214		
160	α 1-アンチトリプシン欠乏症	225	215		
161	ウォルフラム症候群	16	216		
162	ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）	87	217		
163	副甲状腺機能低下症	14	218		
164	偽性副甲状腺機能低下症	1	219		
165	副腎皮質刺激ホルモン不応症	421	220		

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	213
合計患者数(人)	58,071

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
医療DX推進体制整備加算	病棟薬剤業務実施加算1
特定機能病院入院基本料(一般)(7対1)	病棟薬剤業務実施加算2
救急医療管理加算	データ提出加算2
超急性期脳卒中加算	入退院支援加算
診療録管理体制加算2	認知症ケア加算(加算1)
医師事務作業補助体制加算1	せん妄ハイリスク患者ケア加算
急性期看護補助体制加算	排尿自立支援加算
看護職員夜間配置加算	地域医療体制確保加算
療養環境加算	救命救急入院料3
無菌治療室管理加算1	救命救急入院料4[告示注1][告知注3①][告示注4][告知注6(小児加算)][告知注8][告示注9]
無菌治療室管理加算2	特定集中治療室管理料4
緩和ケア診療加算	新生児特定集中治療室重症児対応体制強化管理料
小児緩和ケア診療加算	総合周産期特定集中治療室管理料1
精神科リエゾンチーム加算	総合周産期特定集中治療室管理料2
栄養サポートチーム加算	新生児治療回復室入院医療管理料
医療安全対策加算1	小児入院医療管理料2
感染対策向上加算1	小児入院医療管理料4
患者サポート体制充実加算	短期滞在手術等基本料1
重症患者初期支援充実加算	看護職員処遇改善評価料66
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
ハイリスク妊娠管理加算	・
ハイリスク分娩管理加算	・
呼吸ケアチーム加算	・
術後疼痛管理チーム加算	・
後発医薬品使用体制加算1	・
バイオ後続品使用体制加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料	連携充実加算
外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算
外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	がん治療連携計画策定料
糖尿病合併症管理料	外来排尿自立指導料
がん性疼痛緩和指導管理料	ハイリスク妊産婦連携指導料1
がん患者指導管理料イ	ハイリスク妊産婦連携指導料2
がん患者指導管理料ロ	肝炎インターフェロン治療計画料
がん患者指導管理料ハ	薬剤管理指導料
がん患者指導管理料ニ	医療機器安全管理料1
外来緩和ケア管理料	医療機器安全管理料2
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	在宅血液透析指導管理料
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
糖尿病透析予防指導管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
小児運動器疾患指導管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
婦人科特定疾患治療管理料	遺伝学的検査の「注1」に規定する施設基準
腎代替療法指導管理料	遺伝学的検査の「注2」に規定する施設基準
一般不妊治療管理料	骨髄微小残存病変量測定
生殖補助医療管理料1	BRCA1／2遺伝子検査(腫瘍細胞)(血液)
二次性骨折予防継続管理料1	がんゲノムプロファイリング検査
二次性骨折予防継続管理料3	先天性代謝異常症検査
下肢創傷処置管理料	抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
慢性腎臓病透析予防指導管理料	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
院内トリアージ実施料	検体検査管理加算Ⅰ
外来放射線照射診療料	検体検査管理加算Ⅳ
外来腫瘍化学療法診療料1	国際標準検査管理加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
遺伝カウンセリング加算	小児鎮静下MRI撮影加算
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	全身MRI撮影加算
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
時間内歩行試験 及び シャトルウォーキングテスト	外来化学療法加算1
胎児心エコー法	無菌製剤処理料
ヘッドアップティルト試験	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
脳波検査判断料1	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
単線維筋電図	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
神経学的検査	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
補聴器適合検査	摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2
小児食物アレルギー負荷検査	がん患者リハビリテーション料
内服・点滴誘発試験	リンパ浮腫複合的治療料
経頸静脈的肝生検	通院・在宅精神療法の「注4」に規定する児童思春期精神科専門管理加算
前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	救急患者精神科継続支援料
画像診断管理加算1	静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
画像診断管理加算2	エタノールの局所注入(甲状腺)
遠隔画像診断	エタノールの局所注入(副甲状腺)
ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く)	人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く)	導入期加算3及び腎代替療法実績加算
ポジトロン断層・コンピューター断層(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
CT撮影及びMRI撮影	移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
冠動脈CT撮影加算	ストーマ合併症加算
外傷全身CT加算	皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算
血流予備量比コンピューター断層撮影	皮膚移植術(死体)
心臓MRI撮影加算	組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る)
乳房MRI撮影加算	四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
骨悪性腫瘍、類骨骨腫瘍及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
骨移植術(軟骨移植術を含む)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る))	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)	乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)
後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
椎間板内酵素注入療法	乳癌センチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
腫瘍脊椎骨全摘術	乳癌センチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
緊急穿頭血腫除去術	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡下手術用支援機器を用いる場合)
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	胸腔鏡下肺切除(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る)
角膜移植術(内皮移植加算)	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
羊膜移植術	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡支援機器を用いる場合)
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法))及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
網膜再建術	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	胸腔鏡下弁形成術
人工中耳植込術	経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的な大動脈弁置換術)
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る)	胸腔鏡下弁置換術
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	経皮的僧帽弁クリップ術
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	経皮的な中隔心筋焼灼術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)[歯科診療以外の診療に係るものに限る]	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術、(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術
植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極拔去術	腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	内視鏡的小腸ポリープ切除術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
補助人工心臓	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
経皮的下肢動脈形成術	腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	同種死体腎移植術
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	生体腎移植術
腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下胃切除術(単純切除(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	精巣温存手術
腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	焦点式高エネルギー超音波療法
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る)	腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いた場合)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
体外衝撃波胆石破砕術	腹腔鏡下仙骨腫固定術
腹腔鏡下肝切除術	腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
体外衝撃波膵石破砕術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下膵中央切除術	腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)	地域歯科診療支援病院入院加算
体外式膜型人工肺管理料	医療機器安全管理料(歯科)
輸血管管理料Ⅰ	歯科治療時医療管理料
輸血適正使用加算	精密触覚機能検査
貯血式自己血輸血管理体制加算	歯科口腔リハビリテーション料2
コーディネート体制充実加算	クラウン・ブリッジ維持管理料
同種クリオプレシピテート作製術	CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	歯科技工加算1及び2
麻酔管理料(Ⅰ)	歯科矯正診断料
麻酔管理料(Ⅱ)	口腔病理診断管理加算2
放射線治療専任加算	歯周組織再生誘導手術
外来放射線治療加算	顎関節人工関節全置換術(歯科)
高エネルギー放射線治療	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
一回線量増加加算(全乳房照射・前立腺照射)	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)
強度変調放射線治療(IMRT)	明細書発行について「正当な理由」に該当する旨の届出
画像誘導放射線治療加算(IGRT)	入院時食事療養(Ⅰ)
体外照射呼吸性移動対策加算	酸素の購入単価
定位放射線治療	歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算
定位放射線治療呼吸性移動対策加算(その他)	外来・在宅ベースアップ評価料、歯科外来・在宅ベースアップ評価料、入院ベースアップ評価料46
画像誘導密封小線源治療加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
病理診断管理加算2	・
悪性腫瘍病理組織標本加算	・
地域歯科診療支援病院歯科初診料	・
歯科外来診療医療安全対策加算2	・
歯科外来診療感染対策加算4	・
歯科診療特別対応連携加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	・CPC 6回 / 年 ・婦人科、腎泌尿器科、口腔外科、消化器内科 1回/月 ・乳腺外科 1回/週	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	24件
	剖検率(%)	2.70%

1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こと
(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
Tc同位体を用いた医療用Tc製剤開発と医療用ガンマ線カメラの臨床応用へ向けた開発	株木 重人	放射線治療科学	4,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
自己組織化ポリマーブレンド／無機薄膜で細胞挙動を能動制御する薬剤溶出ステント開発	長谷部光泉	画像診断学	2,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
アレルギー性気管支肺アスペルギルス症の遺伝素因・エキスポソーム統合解析	浅野浩一郎	呼吸器内科学	5,700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
リプログラミング、オルガノイド、エクソソーム、ゲノム編集による椎間板再生技術創出	酒井 大輔	整形外科科学	3,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
難聴発症および重症化に関わる遺伝的素因と後天的要因の解明研究	和佐野浩一郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	2,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
人工知能援用による癌局在抽出・追従技術を活用した前立腺がん標的局所療法確立	小路 直	腎泌尿器科学	300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
骨格筋による脳への影響の解明：うつ病と認知症への効果から脳筋相関の解明を目指して	赤間 史明	精神科学	400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
乳癌微小環境におけるアンドロゲン受容体シグナルによる免疫応答制御機構の解明	花村 徹	乳腺・腫瘍科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
脳腸相関におけるイノシトール・ポリリン酸の役割	永田栄一郎	脳神経内科学	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
生薬オウギによる腎機能改善の分子メカニズムの解明と臨床応用	野上 達也	漢方医学	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
再生アソシエイト細胞静注による認知症治療法の開発	今関 良子	脳神経内科学	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
産後うつ病と栄養に関する観察研究および周産期メンタルサポートチームによる介入研究	山本 賢司	精神科学	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腸内細菌叢への介入による神経発達症関連行動の治療効果	三上 克央	精神科学	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
上部消化管造影検査の自動診断ソフトウェアの開発	橋本 順	画像診断学	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
クローン病の腸管内病原性共生菌に特異的なIgAを用いた新しい診断と治療技術の開発	今井 仁	健康管理学	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ヒト型胆汁酸マウスを用いた進行性家族性肝内胆汁うっ滞症モデル動物の作製	加川 建弘	消化器内科学	600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
短期抗血小板剤2剤併用療法後の冠動脈留置ステントについての病理学的検討	吉川万里江	循環器内科学	600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
骨格筋由来多能性幹細胞による小児消化管運動不全の機能再生治療の開発	渡辺 稔彦	小児外科学	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ダイノルフィンとD-セリンの脊髄疼痛伝達における相互作用に関する研究	渡邊真理子	麻酔科学	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
敗血症に対するデクスメトミジンの臓器保護効果の検証	鈴木 武志	麻酔科学	700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
PD-1/PD-L1シグナル調節による霊長類胎盤の浸潤性獲得機序の解明	岡宮 稜子	産婦人科学	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
Matricellular蛋白SPARCによる細胞性栄養膜細胞の分化制御	三塚加奈子	産婦人科学	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
フレイル予防を目的としたバランス障害のバイオマーカーの探索と新規治療開発	五島 史行	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
Ambra1機能阻害による網膜前駆細胞の増殖と新たな網膜再生医療	鈴木 崇弘	眼科学	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
表情運動を可能にする機能性エピソードの研究開発	赤松 正	形成外科学	100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
包括的外傷長期予後データベースを用いたテラーメイド型社会復帰支援システムの確立	土谷 飛鳥	救命救急医学	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
不顕性誤嚥に対するベッドサイドでの診断法と視覚バイオフィードバック訓練法の開発	小山 祐司	リハビリテーション科学	300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
下肢閉塞性動脈硬化症治療のためのニッケルチタン合金製ステントの機械的特性の最適化	亀井 俊佑	画像診断学	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
NAFLD患者における果糖摂取、腸管透過性、絨毛長に関する検討	松嶋 成志	消化器内科学	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
蛇行末梢血管へのアプローチを可能にする新規細径ステントグラフトの開発	小川 普久	画像診断学	1,250,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
多発性肝嚢胞の遺伝子解析およびiPS細胞を用いた治療薬開発基盤の作成	鶴谷 康太	消化器内科学	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
CLEC-2とGPVIを標的とした新規抗血小板薬の開発とその適応症の探索	渡邊 伸央	救命救急医学	1,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
DNAメチル化年齢解析による血液細胞の加齢メカニズムの解明と全身の老化予防の開発	鬼塚 真仁	血液・腫瘍内科学	1,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ZAG蛋白の免疫細胞に対する作用メカニズムの解明	新倉 直樹	乳腺・腫瘍科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
触診が可能なヒューマノイドハンドを用いた完全腹腔鏡下ロボット支援手術の提案	向井 正哉	消化器外科学	1,700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
患者由来オルガノイドを用いた転移性大腸癌に対する近赤外光線免疫療法の確立	山本聖一郎	消化器外科学	600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
酸素含有ウルトラファインバブルによる一酸化炭素中毒解毒剤作成の検討	守田 誠司	救命救急医学	100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
軟骨組織に発現するESM1の機能解析	豊田恵利子	整形外科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
進行卵巣明細胞癌におけるHIF-1阻害薬の開発を通じた休眠療法の可能性	平澤 猛	産婦人科学	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
Driver Oncogene変異と子宮頸がんの標的療法の開発	町田 弘子	産婦人科学	700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
口腔癌の新規抗体薬の開発 ～NOTCH1阻害薬は扁平上皮癌と腺様嚢胞癌の治療を変える～	佐々木剛史	口腔外科学	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
口腔癌患者由来のミニ癌(癌オルガノイド)を利用した個別化医療モデルの開発	山崎 浩史	口腔外科学	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
薬毒物中毒の初期診療を習得するための独自のシミュレーション教育プログラムの開発	山本 理絵	救命救急医学	400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
病院前輸血療法における全国悉皆的疫学調査と最適病院前輸血療法戦略の構築	三浦 直也	救命救急医学	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
液体クロマトグラフ質量分析計による異性体及び類似化合物の網羅的分離分析法の確立	斉藤 剛	救命救急医学	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
筋肉と脳機能のクロスオーバー：骨格筋による認知症やうつ病の治療の確立	西川 圭太	精神科学	400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
難治性・治療抵抗性の血液腫瘍に対する食品成分を用いた新たな低侵襲的治療の開発	川田 浩志	血液・腫瘍内科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
化学療法前後での膵癌分子サブタイプの変化に基づいたプレシジョン・メディシンの開発	永 滋教	消化器外科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
血液培養陽性症例の早期検出システム構築：AIを用いた全血算データの解析による	佐藤 翔太	総合内科学	1,400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
新世代大腸がん検診プログラムの開発ーAIを用いたハイリスクターゲット内視鏡検診	井上 詠	健康管理学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
慢性腎臓病に対する生薬オウギの適応と有効性に関する臨床および基礎的検討	沖 将行	総合内科学	1,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
エクソソーム内包プロゲステロンによる胎児・胎児組織の拒絶防止免疫機構	大岩 一平	産婦人科学	1,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
糖尿病性心筋症メカニズム解明・治療標的探索～人工知能による大規模臨床データ解析～	後藤 信一	総合内科学	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
加熱式たばこ喫煙も紙巻たばこ喫煙同様、肺癌の発症および進行の危険因子となるか？	伊藤 洋子	呼吸器内科学	1,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
アレルギー性気管支肺真菌症と真菌菌感作喘息の違いとその病態解明	小熊 剛	呼吸器内科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
慢性移植腎障害とポドサイト	小泉 賢洋	腎内分泌代謝内科学	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
多発性骨髄腫の抗体療法への耐性獲得における選択的スプライシングの異常	扇屋 大輔	血液・腫瘍内科学	600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎/急速進行性間質性肺炎の病態解明および新規治療法の開発	佐藤 慎二	リウマチ内科学	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腫瘍内微小環境をターゲットにした有酸素運動併用新規膵癌術前化学療法の開発	岡田 健一	消化器外科学	2,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
オピオイド誘導性痛覚過敏におけるダイノルフィンとDセリンの相互作用	姜 卓義	麻酔科学	1,800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
エリブリンと腫瘍治療電場療法を用いた膠芽腫の新規治療法開発	高橋 雅道	脳神経外科学	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
脊髄損傷に対するグルカゴン用ベプチド-1受容体作動薬の治療効果メカニズム	加藤 裕幸	整形外科科学	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
脊髄損傷急性期におけるGLP-1受容体作動薬の有効性の検討	渡辺 雅彦	整形外科科学	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
性ホルモンによるフェロトシス逃避機構と新規脂質標的治療の開発・泌尿器癌横断研究	長谷川政徳	腎泌尿器科学	1,400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
プロゲステロンによる免疫制御効果の解析	安田 敦	腎内分泌代謝内科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
卵巣明細胞腺癌患者の免疫系を再構築した担癌ヒト化マウスによる新規抗がん剤の評価	百瀬 浩晃	産婦人科学	1,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
胎児に由来する妊娠維持シグナルの調節機構と機能	石本 人士	産婦人科学	1,800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
難聴者の精神的社会的影響の改善に向けたACEprogram日本語版の作成とその有用性の検討	稲木 利英	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
多施設共同研究で唾液腺導管癌の予後因子と治療効果予測を明らかにする	大上 研二	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
表皮角化細胞におけるTie2/Ang-1システムの作用解明とその応用	根本 仁	形成外科学	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
再発転移口癌の薬物療法における新たなアルゴリズムの提案	青木 隆幸	口腔外科学	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
神経・筋疾患における外部刺激による脳活動・筋シナジーに注目した運動制御法の解明	西田 大輔	リハビリテーション科学	1,900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
肘部尺骨神経障害の新たな神経伝導検査～順行性尺骨神経混合神経伝導検査の開発～	児玉 三彦	リハビリテーション科学	700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
Anacetrapibを用いた脳虚血再灌流障害に対する脳保護作用の検討	水間 敦士	脳神経内科学	400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
多様なプロテアーゼに親和性を持ち妊婦の炎症を抑制するプロテアーゼ阻害分子の解析	柏木 寛史	産婦人科学	500,891	補委 独立行政法人日本学術振興会
CBDとHPV関連頭頸部癌 その増殖メカニズムの解明	戎本 浩史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
切除不能肺癌における化学療法効果予測因子となりうるmicroRNAの探索	森町 将司	消化器内科学	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
酸化DAGを起点とした間質性肺炎の分子機構解明と新たな病勢推定マーカーの開発応用	松崎 智彦	呼吸器外科学	700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
重複癌既往患者における次世代シーケンサーを用いた肺扁平上皮癌の診断	有賀 直広	呼吸器外科学	200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
頭蓋内温熱治療を目的としたシミュレーションに必要な脳・腫瘍組織の光熱物性値の測定	佐野 史弥	脳神経外科学	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
外傷性上肢切断で標的化筋肉再神経分布を利用した多自由度筋電義手の操作能力の向上	吉田 進二	整形外科	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ラット肩腱板断裂モデルにおける骨格筋由来幹細胞移植による腱板再生効果	今井 洸	整形外科	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
頭頸部癌におけるスプライシング関連遺伝子CPSF1遺伝子異常による発癌機構の解明	酒井 昭博	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
リキッドバイオプシーは口腔癌の新たなツールとなる～PDXモデルによる解析で実証～	内堀 雅博	口腔外科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
心筋リモデリングに対するQQ細胞の効果	松田 晋一	小児科学	400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
RANK/RANKLシグナルが原発性胆汁性胆管炎の発症、進展に果たす役割の解明	荒瀬 吉孝	消化器内科学	500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
肺胞微小環境における細胞間相互作用にコレチコステロイドが与える影響	滝口 寛人	呼吸器内科学	1,400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腎移植患者に対する新規SARS-CoV-2予防ワクチン接種法の提案と検証	富田 祐介	移植外科学	1,400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
細胞生着を促進する組織再現人工真皮による皮膚再生医療技術の開発	花井 潮	形成外科学	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
VR空間共有による手術学習ツールの検討	増岡 義人	消化器外科学	200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
機械学習によるメトレキセート関連リンパ増殖性疾患の発症予測	白岩佐和子	血液・腫瘍内科学	1,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
アセトアルデヒドによるDNA損傷の蓄積と食道癌発がんの関連	藤澤 美亜	消化器内科学	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
生体から得られた冠動脈プラーク解析によるプラーク不安定化メカニズムの解明	中村 則人	循環器内科学	1,900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
マウス気管移植モデルを用いたヘモグロビンナノ粒子の微小循環に対する虚血改善効果	小野沢博登	呼吸器外科学	1,800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
骨格筋間質多能性幹細胞を用いた萎縮筋への再生効果の検討	鷹取 直希	整形外科科学	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
患者侵襲の定量化と外科手術侵襲評価スコアの開発	宮北 寛士	消化器外科学	400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
説明可能人工知能による潰瘍性大腸炎・クローン病の診断・治療選択・予後予測系の開発	鈴木 秀和	消化器内科学	2,800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
好酸球性消化管疾患、診療ガイドラインの改訂と、国際的な疾患サブグループ名の整備に関する研究	山田 佳之	小児科学	770,000	補委 厚生労働省
真菌関連アレルギー性気道疾患における真菌生態・宿主応答機序の解明と発症・増悪・重症化予防法の開発	浅野 浩一郎	呼吸器内科学	17,500,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
変形性膝関節症に対する多血小板血漿 (PRP) 関節内注射の有効性検証医師主導治験	佐藤 正人	整形外科科学	40,000,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ピロリ菌関連胃癌を制御する食習慣と胃内環境の特定に向けた国際臨床研究	鈴木 秀和	消化器内科学	5,199,231	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
コラーゲン産生細胞の脱活性化誘導と独創的in silico創薬法に基づく肝線維症の革新的治療法の開発	稲垣 豊	総合医学研究所	23,000,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
膝窩動脈以下 (below-the-knee: BTK) の細径動脈硬化性病変に対する長期開存ステントシステムの実用化研究	長谷部 光泉	画像診断学	100,472,309	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
心房中隔欠損症を心電図・胸部X線から検出する人工知能の開発および社会実装 -小児を含めた超早期検出への挑戦-	後藤 信一	総合内科学	20,000,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
椎間板変性症に対する再生医療の実用化を目指した同種髄核細胞製品の研究開発	酒井 大輔	整形外科科学	69,066,154	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ICD-11伝統医学の病態-モジュールIの活用と、安全で有効な漢方治療実践のための基盤整備研究	野上 達也	漢方医学	4,994,600	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
人工内耳装用における効果的な介入法に関する研究開発	和佐野 浩一郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	12,000,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
生物学と人文科学の融合:人類情報学 (Anthropological Informatics) の構築	松前 ひろみ	分子生命科学	9,822,000	補委 国立研究開発法人科学技術振興機構

計108件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入す
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Masami Shimoda	医学部医学科外科学系脳神経外科学	Cortical Hyperperfusion on MRI Arterial Spin-Labeling during the Interictal Period of Patients with Migraine Headache	American Journal of Neuroradiology・202406	Original Article
2	Izumi Hideki	医学部医学科外科学系消化器外科学	Efficacy of Pancreatic Dissection With a Triple-row Stapler in Laparoscopic Distal Pancreatectomy: A Retrospective Observational Study	Surgical Laparoscopy, Endoscopy & Percutaneous Techniques・202406	Original Article
3	Yuji Koyama	医学部医学科専門診療学系リハビリテーション科学	Bedside diagnosis of silent aspiration using mobile dynamic digital radiography: a preliminary study	Eur Arch Otorhinolaryngol・202410	Original Article
4	Kosuke Shirose	診療部麻酔科	Imipramine Increases Norepinephrine and Serotonin in the Salivary Glands of Rats.	Biology・202408	Original Article
5	Masako Shomura	医学部看護学科基盤看護系基礎看護学	Immune-related adverse event detection in liver cancer patients treated with immune checkpoint inhibitors: Nationwide exploratory survey in Japan	Hepatology Research・202411	Original Article
6	Masako Shomura	医学部看護学科基盤看護系基礎看護学	Impact of Atezolizumab + Bevacizumab Therapy on Health-related Quality of Life in Patients with Advanced Hepatocellular Carcinoma	Cancers・202410	Original Article
7	Ryuzo Deguchi	医学部医学科内科学系消化器内科学	Colorectal mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma and Helicobacter pylori eradication treatment: a report of 5 cases	The Journal of Gastrointestinal and Liver Diseases・202409	Original Article
8	Takashi Kasahara	医学部医学科専門診療学系リハビリテーション科学	A case of neuralgic amyotrophy presenting with multiple lower cranial neuropathies with delayed onset of symptoms.	PM & R・202502	Original Article
9	Taiji Matsusaka	医学部医学科基礎医学系生体機能学	Dach1 is essential for maintaining normal mature podocytes.	PLoS One.・202405	Original Article
10	Haruyo Atsumi	医学部医学科基盤診療学系臨床検査学	Current medical support for victims of domestic violence and sexual assault: A nationwide survey among obstetricians and gynecologists in Japan	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research・202503	Original Article
11	Yuko Ohnuki	医学部医学科基盤診療学系医療倫理学	Japanese General Clinical Oncologists' Knowledge and Real-world Experiences of Cancer Genomic Medicine: A Nationwide Web-based Survey Study	JMA Journal・202404	Original Article
12	Yoshiaki Kawamura	医学部医学科外科学系泌尿器科学	A case report of a 5mm port site hernia that occurred at the drain insertion site after laparoscopic right nephrectomy.	Journal of Case Reports・202404	Original Article
13	Yuna Onozawa	医学部医学科内科学系腎内分泌代謝内科学	A case of ANCA-negative pauci-immune crescentic glomerulonephritis with lung adenocarcinoma with mediastinal involvement successfully treated by corticosteroid and radiation therapy.	CEN Case Reports	Original Article
14	Hiromi Miura	医学部医学科基礎医学系分子生命科学	Targeted insertion of conditional expression cassettes into the mouse genome using the modified i-PIT	BMC Genomics	Original Article
15	Ushio Hanai	医学部医学科外科学系形成外科学	Maxillary Bone Fracture Due to a Miniscrew-Assisted Rapid Maxillary Expansion: A Case Report	Journal of Clinical Medicine・202503	Original Article
16	Ushio Hanai	医学部医学科外科学系形成外科学	Orbital Implant Surgery with Costal Cartilage Graft Is Associated with Better Symmetry and Improved Cosmetic Appearance	Journal of Clinical Medicine・202503	Original Article

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
17	Toshiharu Fujii	医学部医学科内科学系循環器内科学	Epidemiological and Prognostic Importance of New-Onset Cancer as a Net Adverse Clinical Outcome after ST-Elevation Myocardial Infarction.	Journal of Cardiovascular Development and Disease・202408	Original Article
18	Tamaki Ichikawa	医学部医学科専門診療学系画像診断学	A case of coexistence of multiple vascular anomalies including the absence of a left internal carotid artery, a left vertebral artery arising from the subclavian artery in a high cervical location, and a bovine arch associated with vertebral fusion	Radiol Case Rep・202408	Original Article
19	Tamaki Ichikawa	医学部医学科専門診療学系画像診断学	Case of Isolated Absence of the Azygos Vein: Evaluation Using Photon-counting Detector CT	Tokai J Exp Clin Med・202408	Original Article
20	Tamaki Ichikawa	医学部医学科専門診療学系画像診断学	Evaluation of Incidental Findings on Abdominopelvic CT: Potential Benefit of Photon-counting Detector CT Over Conventional Single-energy CT	Tokai J Exp Clin Med・202408	Original Article
21	Tomoyoshi Komiyama	医学部医学科基盤診療学系臨床薬理学	Association of adenylate cyclase activity in vasopressor-type neurally mediated syncope based on the α 2b-AR gene	PLOS One・202502	Original Article
22	Kimiaki Okada	医学部医学科外科学系心臓血管外科学	Cerebral Protection With Deep Hypothermic Circulatory Arrest During Total Arch Replacement Using the Arch-First Technique for Acute Aortic Dissection	Cureus・202408	Original Article
23	Sunao Shoji	医学部医学科外科学系腎泌尿器科学	Anatomy of muscle connections in the male urethra and anorectal canal	The BJU International Journal・202406	Original Article
24	Hidetsugu Kawai	医学部医学科内科学系血液・腫瘍内科学	ALK-negative anaplastic large cell lymphoma with TP53 mutation developing during the administration of baricitinib for atopic dermatitis – A case report	Journal of clinical and experimental hematopathology・202503	Original Article
25	Kota Tsuruya	医学部医学科内科学系消化器内科学	Abcb4-defect cholangitis mouse model with hydrophobic bile acid composition by in vivo liver-specific gene deletion	Journal of Lipid Recerch・202408	Original Article
26	Toshiro Seki	医学部医学科内科学系腎内分泌代謝内科学	Coccomyxa subellipsoidea KJ components enhance the expression of metallothioneins and Th17 cytokines during human T cell activation.	Microorganisms・202404	Original Article
27	Toshiro Seki	医学部医学科内科学系腎内分泌代謝内科学	Liposome-encapsulated progesterone efficiently suppresses B-lineage cell proliferation.	Biochem Biophys Rep.・202407	Original Article
28	Sho Torii	医学部医学科内科学系循環器内科学	Degradation of a novel magnesium alloy-based bioresorbable coronary scaffold in a swine coronary artery model	Cardiovascular Intervention and Therapeutics・202410	Original Article
29	Sho Torii	医学部医学科内科学系循環器内科学	Pathological evaluation of predictors for delayed endothelial coverage after currently available drug-eluting stent implantation in coronary arteries: Impact of lesions with acute and chronic coronary syndromes	American Heart Journal・202411	Original Article
30	Tetsu Niwa	医学部医学科専門診療学系画像診断学	Preoperative dual-energy computed tomography and positron-emission tomography evaluation of lymph node metastasis in esophageal squamous cell carcinoma	PLOS One・202409	Original Article
31	Tetsu Niwa	医学部医学科専門診療学系画像診断学	Turbo spin-echo-based enhanced acceleration-selective arterial spin labeling without electrocardiography or peripheral pulse unit triggering and contrast enhancement for lower extremity MRA	Magn Reson Imaging .・202404	Original Article
32	Tetsu Niwa	医学部医学科専門診療学系画像診断学	Visibility of Intracranial Perforating Arteries Using Ultra-High-Resolution Photon-Counting Detector Computed Tomography (CT) Angiography	Tomography・202411	Original Article
33	Jin Imai	医学部医学科総合診療学系健康管理学	A Pilot Study Using a Smartwatch to Search for Biomarkers of Heart Rate Variability in Active Ulcerative Colitis	Inflamm Intest Dis・202412	Original Article

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
34	Jin Imai	医学部医学科総合診療学系健康管理学	Case Series of Eosinophilic Esophagitis Detected via Endoscopic Examination in General Health Check-up	Health Evaluation Promotion・202407	Original Article
35	Jin Imai	医学部医学科総合診療学系健康管理学	Comparative study of MAFLD as a predictor of metabolic disease treatment for NAFLD	Scientific Reports・202406	Original Article
36	Jin Imai	医学部医学科総合診療学系健康管理学	Macrophage-depleted young mice are beneficial in vivo models to assess the translocation of Klebsiella pneumonia from the gastrointestinal tract to the liver in the elderly.	Microbes and infection・202406	Original Article
37	Hiroto Takiguchi	医学部医学科内科学系呼吸器内科学	Detrimental impact of late-onset pneumonia on long-term prognosis in oesophageal cancer survivors	Respir Investig・202407	Original Article
38	Kohei Umemoto	医学部医学科内科学系呼吸器内科学	Difficult Differential Diagnosis of Paraneoplastic Neuromuscular Diseases Associated with Small Cell lung Cancer: A Report of Two Cases	Tokai J Exp Clin Med・202412	Original Article
39	Makiko Kurata	医学部医学科基盤診療学系病理診断学	Utility of Pipet Curet Cytology and Biopsy as a Diagnostic Method for Endometrial Endometrioid Carcinoma	Acta Cytologica・202409	Original Article
40	Toshiki Kazama	医学部医学科専門診療学系画像診断学	Utility of Echo-planar Imaging with Compressed Sensitivity Encoding (EPICS) in the Evaluation of Small Breast Cancers Using Diffusion-weighted Imaging with Background Suppression (DWIBS).	Magnetic resonance in medical sciences : MRMS : an official journal of Japan Society of Magnetic Resonance in Medicine・202407	Original Article
41	Takashi Makiuchi	医学部医学科基礎医学系生体防御学	Evidence of γ -secretase complex involved in the regulation of intramembrane proteolysis in Entamoeba histolytica	Parasitology International・202412	Original Article
42	Yu Kakimoto	医学部医学科基盤診療学系法医学	Layer-specific proteomic profiling of human normal heart	Pathology - Research and Practice・202407	Original Article
43	Haruka Ikeda	診療協力部臨床法医科	Colloidal iron staining used for amniotic fluid in lung sections of stillborn infants in histopathology.	Leg Med.・202501	Original Article
44	Joaquim Carreras	医学部医学科基盤診療学系病理診断学	Anomaly Detection and Artificial Intelligence Identified the Pathogenic Role of Apoptosis and RELB Proto-Oncogene, NF- κ B Subunit in Diffuse Large B-Cell Lymphoma	BioMedInformatics・202406	Original Article
45	Nakada Yoshinobu	医学部医学科専門診療学系漢方医学	Rapid alleviation of severe epigastric pain associated with gastroesophageal reflux disease through the addition of orengedokuto to standard treatment: A clinical letter	Traditional & Kampo Medicine・202502	Original Article
46	Wakana Toya	医学部付属病院看護部	Perioperative skin color in patients undergoing transcatheter aortic valve implantation	Color Research & Application・202408	Original Article
47	Hiroko Machida	医学部医学科専門診療学系産婦人科学	Cost-effectiveness analysis of hospital treatment volume and survival outcomes in endometrial cancer in Japan.	J Gynecol Oncol.・202409	Original Article
48	Hiroko Machida	医学部医学科専門診療学系産婦人科学	Quality of care measurement for patients with ovarian cancer in Japan.	J Obstet Gynaecol Res.・202402	Original Article
49	Mizuho Ota	医学部医学科専門診療学系皮膚科学	A Case of Generalized Pustular Psoriasis with Organizing Pneumonia During Treatment for Rheumatoid Arthritis	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine・202404	Original Article
50	Naokata Kutsuzawa	総合医学研究所	Evaluation of Perfusion Cell Culture Conditions in a Double-Layered Microphysiological System Using AI-Assisted Morphological Analysis	Micromachines・202503	Original Article
51	Reiko Saito	診療部皮膚科	A Case of Phaeohyphomycosis Cause by Exophiala xenobiotica in an Immunocompromised Host	Medical Mycology Journal・202501	Original Article
52	Masanori Hasegawa	医学部医学科外科学系腎泌尿器科学	Predictors of surgical difficulty according to surgical proficiency in robot-assisted radical prostatectomy	Surgical Endoscopy・202406	Original Article

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
53	Hiromi Matsumae	医学部医学科基礎医学系分子生命科学	Image Analysis Characterizes Phenotypic Variation in the Growth of Mushroom-Forming Fungus <i>Schizophyllum commune</i>	Genes to Cells・202411	Original Article
54	Atsuhiko Yagishita	医学部医学科内科学系循環器内科学	Long-term Efficacy of a Standardized Catheter Ablation Strategy Utilizing Recent Advanced Technologies in Preventing Permanent Atrial Fibrillation.	Heart Rhythm・202503	Original Article
55	Hajime Kayano	医学部医学科外科学系消化器外科学	Risk Factors Associated With Perioperative Skeletal Muscle Loss in Patients With Colorectal Cancer	Anticancer Research・202409	Original Article
56	Joaquim Carreras	医学部医学科基礎診療学系病理診断学	Mutational, immune microenvironment, and clinicopathological profiles of diffuse large B-cell lymphoma and follicular lymphoma with BCL6 rearrangement	Virchows Arch.・202404	Original Article
57	Yusuke Tomita	医学部医学科外科学系移植外科学	Effects of anti-SARS-CoV-2 vaccination in living kidney transplant recipients prior to transplantation	Clinical and Experimental Nephrology・202407	Original Article
58	Yusuke Tomita	医学部医学科外科学系移植外科学	Impaired SARS-CoV-2-specific responses via activated T follicular helper cells in immunocompromised kidney transplant recipients	Scientific Reports・202411	Original Article
59	Takashi Koike	医学部医学科総合診療学系小児科学	Efficacy of vinblastine and methotrexate in a childhood patient with progressive desmoid fibromatosis of the lower jaw: A case report	Tokai J Exp Clin Med・202410	Original Article
60	Takashi Koike	医学部医学科総合診療学系小児科学	Prolonged severe cytopenia followed by fatal CAR T-cell-mediated encephalitis in a patient with acute lymphoblastic leukemia	Blood Cell Therapy・202409	Original Article
61	Taira Nakayama	医学部医学科内科学系脳神経内科学	Intravenous Regeneration-associated Cell Transplantation Enhances Tissue Recovery in Mice with Acute Ischemic Stroke.	The Keio journal of medicine・202411	Original Article
62	Abd Aziz Ibrahim	医学部医学科基礎医学系生体防御学	Plasminogen activator inhibitor-1 promotes immune evasion in tumors by facilitating the expression of programmed cell death-ligand 1	Frontiers in Immunology・202405	Original Article
63	Koichiro Wasano	医学部医学科専門診療学系耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Idiopathic sudden sensorineural hearing loss: A review focused on the contribution of vascular pathologies.	Auris, nasus, larynx・202406	Original Article
64	Fumiyuki Goto	医学部医学科専門診療学系耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Prognostic significance vestibular examination results in patients with vestibular migraine.	Frontiers in neurology・202404	Original Article
65	Koichiro Wasano	医学部医学科専門診療学系耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Speech characteristics that differentiate stuttering and cluttering in Japanese speakers.	Frontiers in psychology・202411	Original Article
66	Koichiro Wasano	医学部医学科専門診療学系耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	The effect of aging and asymmetrical hearing on speech discrimination.	Communications medicine・202408	Original Article
67	Fumio Sakamaki	医学部医学科内科学系呼吸器内科学	Evaluation of the Relationship Between Pulmonary Perfusion Via Chest Digital Dynamic Radiography System and Diffusing Capacity Test	Advances in experimental medicine and biology・202410	Original Article
68	Shigeya Takeo	医学部医学科外科学系消化器外科学	Successful laparoscopic arterial ligation of splenic artery aneurysm with a splenomesenteric trunk: a case report and literature review	Surgical Case Reports・202411	Original Article
69	Yoko Ueda	医学部医学科基礎医学系生体構造学	Common trunk branching from the renal artery to the diaphragm, adrenal gland, and testis: a case report with embryological hypotheses by observation	Anatomical Science International・202503	Original Article
70	Hiroshi Ide	医学部医学科外科学系移植外科学	Mouse embryonic kidney transplantation identifies maturation defects in the medulla	scientific reports・202412	Original Article

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
71	Hiroshi Yoshida	医学部医学科専門診療学系産婦人科学	Intrauterine manipulator use during laparoscopic hysterectomy for endometrial cancer: association for pathological factors and oncologic outcomes.	Int J Gynecol Cancer.・202404	Original Article

計71件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能			題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1							
2							
3							
～							

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有 ☐ 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有 ☐ 無
・ 手順書の主な内容 東海大学医学部「人を対象とする生命科学・医学系研究」に関する審査規程、東海大学医学部「人を対象とする生命科学・医学系研究」に関する審査細則、東海大学医学部「人を対象とする生命科学・医学系研究」に関する実施要項において、委員会、申請、審査、実施許可等について記載している。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	定例年12回、迅速年41回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有 ☐ 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有 ☐ 無
・ 規定の主な内容 学校法人東海大学利益相反に関する規程 学校法人東海大学利益相反ポリシー 東海大学伊勢原キャンパス利益相反マネジメント委員会規程	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 12回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1回
・ 研修の主な内容 国立研究開発法人 国立がん研究センターが主催しているeラーニング「ICR (Introduction to Clinical Research) 臨床研究入門」(略称: ICRweb)の教材を使用して、臨床研究に特化した倫理教育を行っている。「臨床研究の基礎知識講座」と、年に1度の「継続研修講座」の受講を定めている。	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各研修領域の研修プログラムに沿い、到達目標の達成を目指し、専門医取得に向けた臨床研修を実施。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 182 人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診 療 科	役 職 等	臨床経験年数	特 記 事 項
小澤 秀樹	総合内科	教授	39 年	
川田 浩志	血液使用内科	教授	36 年	
小柳 和夫	消化器外科	教授	32 年	
高橋 雅道	脳神経外科	教授	23 年	
渡辺 雅彦	整形外科	教授	38 年	
赤松 正	形成外科	教授	35 年	
小路 直	腎泌尿器科	教授	22 年	
鈴木 武志	麻酔科	教授	27 年	
中川 儀英	救命救急科	教授	38 年	
山田 佳之	小児科	教授	29 年	
平澤 猛	産婦人科	准教授	34 年	
山本 賢司	精神科	教授	35 年	
馬淵 智生	皮膚科	教授	26 年	
大上 研二	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	39 年	
鈴木 崇弘	眼科	教授	26 年	
水野 勝広	リハビリテーション科	教授	26 年	
橋本 順	画像診断科	教授	37 年	
中村 直哉	病理診断科	教授	40 年	
後藤 和人	臨床検査科	教授	22 年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

【認定静脈注射看護師講習会】

※静脈注射を単独で施行できる看護師の育成

- ・2024 年 6 月 15 日（土） 36 名
- ・2024 年 7 月 20 日（土） 26 名（放射線技師 2 名含む）
- ・2024 年 11 月 16 日（土） 24 名（放射線技師 2 名含む）

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

【看護単位責任者就任時研修】

※看護単位責任者に求められる基本的事項を理解する。

2025 年 3 月 14 日（金） 6 名

【主任就任時研修】

※主任に必要な看護管理とリスクマネージャーの役割について学ぶ

2024 年 5 月 8 日（水） 8 名

【主任研修】

2025 年 1 月 23 日（木） 51 名

【副主任就任時研修】

※副主任として、看護管理に求められる基本的な知識、技術、態度を学ぶ

2024 年 5 月 27 日（月） 11 名

【副主任研修】

2024 年 11 月 25 日（月）・27 日（水） 計 67 名

【看護単位責任者研修】

※看護単位責任者としての役割や業務遂行に必要な能力開発

2025 年 2 月 6 日（木） 33 名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

【施設オープンセミナー】

- | | | |
|-----------------------|---------------------|------|
| ①家族看護Ⅰ | 2024 年 7 月 23 日（火） | 10 名 |
| ②創傷ケアⅠ | 2024 年 8 月 27 日（火） | 16 名 |
| ③どの病棟でも遭遇する疾患の看護（基礎編） | 2024 年 7 月 2 日（火） | 9 名 |
| ④味方につけよう疫学的視点 | 2024 年 7 月 18 日（金） | 2 名 |
| ⑤新生児の急性期看護を学ぼう | 2024 年 9 月 10 日（火） | 3 名 |
| ⑥急性混乱への対応（せん妄・不穏） | 2024 年 9 月 27 日（金） | 1 名 |
| ⑦創傷ケアⅡ | 2024 年 10 月 22 日（金） | 9 名 |

⑧がん看護 実践編	2024 年 10 月 10 日 (木)	1 名
⑨家族家族Ⅲ	2024 年 11 月 12 日 (火)	1 名
⑩どの病棟でも遭遇する疾患の看護 (応用編)	2024 年 11 月 29 日 (火)	7 名
⑪基礎から学ぶ医療従事者の災害対策	2024 年 11 月 30 日 (土)	3 名
⑫私にもわかる・できる！自殺未遂者ケア	2025 年 1 月 10 日 (金)	9 名
⑬がん薬物療法編	2024 年 12 月 12 日 (木)	1 名
⑭ストーマケア	2024 年 12 月 17 日 (火)	5 名
⑮院内での災害対応活動 (現場実践編)	2024 年 12 月 21 日 (土)	4 名
⑯基礎から学ぶ酸素療法	2025 年 1 月 25 日 (土)	4 名
⑰遺伝看護	2025 年 2 月 26 日 (水)	2 名
⑱在宅療養者支援	2025 年 1 月 18 日 (土)	3 名

【気づきコース・ICLS コース・JATS コース】

① 患者急変対応・気づきコース	2024 年 8 月 8 日 (木) 4 名	・2024 年 12 月 5 日 (木) 8 名
	2025 年 2 月 6 日 (木) 8 名	
② 患者急変対応・気づき指導者 養成コース	2024 年 7 月 5 日 (木) 1 名	・2025 年 2 月 6 日 (木) 15 名
③ ICLS コース	2025 年 2 月 15 日 (土) 2 名	
④ ICLS 指導者養成ワークショップ	2024 年 12 月 14 日 (土) 2 名	
⑤ 緊急度判断 (JTAS/トリアージ)	2024 年 7 月 30 日 (火) 2 名	・2024 年 9 月 7 日 (土) 23 名
臨床推論コース	2025 年 2 月 1 日 (土) 24 名	

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	診療情報部長・小川吉明 / 事務部長・中村晃司
管理担当者氏名	事務課（医療情報管理）課長・鈴木政智 / 事務課（総務）課長 笠原勝幸

		保 管 場 所		管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	事務課（総務）	紙保管、データベース管理
		各科診療日誌	事務課（総務）	紙保管
		処方せん	薬剤部	紙媒体で発生したものは電子カルテにスキャナ読み取りを行い、認証局のタイムスタンプ
		手術記録	事務部（医療情報管理・システムデータ管理担当サーバー室）	／電子署名により電磁的記録を原本として管理する（サーバー室管理）
		看護記録	事務部（医療情報管理・システムデータ管理担当サーバー室）	
		検査所見記録	事務部（医療情報管理・システムデータ管理担当サーバー室）	
		エックス線写真	事務部（医療情報管理・システムデータ管理担当サーバー室）	スキャナ読み取り後の原紙の管理は事務課（医療情報管理担当）で1年間保管後廃棄。電子化以
		紹介状	事務部（医療情報管理・システムデータ管理担当サーバー室）	前の現物の手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真（画像データ）、紹介状、退院時要約、入院診療計画書の管理については、別紙参照。
退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	事務部（医療情報管理・システムデータ管理担当サーバー室）			
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	事務課（人事）	紙保管、データベース管理
		高度の医療の提供の実績	事務課（医事・健診）、臨床研修部、事務課（総務）	紙保管、データベース管理
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	学長室（評価担当）、研究イノベーションセンター研究支援室、治験・臨床研究センター	データベース管理
		高度の医療の研修の実績	臨床研修部	紙保管、データベース管理
		閲覧実績	事務課（総務）、事務課（医療情報管理）	紙保管
		紹介患者に対する医療提供の実績	事務課（医事・健診）	データベース管理
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	事務課（総務） 薬剤部	紙保管、データベース管理
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策課	紙保管、データベース管理
医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		医療安全対策課	紙保管、データベース管理	
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		医療安全対策課	紙保管、データベース管理	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		医療安全対策課	紙保管、データベース管理	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	院内感染対策室	紙保管、データベース管理
		院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策室	紙保管
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	院内感染対策室	紙保管
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染対策室	紙保管
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医薬品安全管理室	紙保管、データベース管理
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 医薬品安全管理室	紙保管、データベース管理
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部 医薬品安全管理室	紙保管、データベース管理
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部 医薬品安全管理室	紙保管、データベース管理
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療機器安全管理室	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	電子カルテ端末 ファイルサーバ：研修実施記録（ファイルサーバ、医療機器安全管理委員会、医療機器研修会計画表、研修実施記録）	データベース管理
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	電子カルテ端末 ファイルサーバ：医療機器保守点検計画表 （ファイルサーバ、医療機器安全管理委員会、医療機器保守点検計画表）	データベース管理
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	・電子カルテ端末 医療機器安全管理室ホームページ（自主回収情報、目的外使用機器、医療安全NEWS、研修コンテンツ等） ・電子カルテ端末 医療機器整備室ホームページ（各医療機器の添付文書、取扱説明書等）	データベース管理

		保 管 場 所	管 理 方 法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全対策課	紙保管、データベース管理
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室	紙保管、データベース管理
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医薬品安全管理室	紙保管、データベース管理
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	事務課（医療情報管理担当）	紙保管、データベース管理
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	事務課（医療情報管理担当）	紙保管、データベース管理
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全対策課	紙保管、データベース管理
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療監査部	紙保管、データベース管理
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医薬品安全管理室	紙保管、データベース管理
		監査委員会の設置状況	医療監査部	紙保管、データベース管理
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全対策課	紙保管、データベース管理
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全対策課	紙保管、データベース管理
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全調査課 総合相談室	紙保管、データベース管理
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全対策課	紙保管、データベース管理
		職員研修の実施状況	医療安全対策課	紙保管、データベース管理
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療監査部	紙保管、データベース管理
		管理者が有する権限に関する状況	事務課（経営企画）	データベース管理
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	事務課（経営企画）	データベース管理
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	事務課（経営企画）	データベース管理

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

診療に関する諸記録（現物）－診療記録・情報管理規程より抜粋

（手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係わる入院期間の診療経過の要約及び入院診療計画書）

1. 診療記録（エックス線写真含む）の保管期間（電子化以前分）

- （1） 外来カルテ ： 診療の完結の日から 5 年間とする。
- （2） 入院カルテ ： 診療の完結の日から 5 年間とする。

※ただし、次に該当する記録は長期保管対象とする。

- ① 治験症例
- ② 特定生物由来製品使用症例
- ③ 損害賠償請求に関わる症例
- ④ 特定不妊治療費助成事業に関わる症例
- ⑤ 臓器等移植症例
- ⑥ 先天異常症例
- ⑦ B 型・C 型肝炎症例
- ⑧ 照射録
- ⑨ 産科記録
- ⑩ その他病院長が認めた症例

- （3） X線フィルム ： 1 のただしに規定する長期保管分のみ

2. 診療記録（電子化以前分）の保管方法

- （1） 外来カルテ ： 全科 1 フォルダーの患者 ID 番号ターミナルディジット分類保管とする。
- （2） 入院カルテ ： 1 入退院毎製本し患者 ID ターミナルディジット分類による分類保管とする。
- （3） X線フィルム： 患者 ID 番号ターミナルディジット分類による大袋保管とする。

3. 上記の診療に関する諸記録は、外来診療、入院診療、医学研究等を目的として、院内で閲覧及び借り出すことはできるが、院外へ持ち出すことはできない。

以上

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	中村晃司（事務部長）・鈴木政智（事務課長（医療情報管理））
閲覧担当者氏名	鈴木政智（事務課長（医療情報管理））
閲覧の求めに応じる場所	会議室、医療情報管理カルテ室、診療録開示室等
閲覧の手続の概要 ・公的監査の通知に基づき、必要書類を整え、閲覧場所にて監査依頼人の指示の下、病院の管理運営に関する諸記録の説明を行う。 ・公的監査における診療録の閲覧については、指定を受けた記録について、該当記録・書類を紙出力し、病院職員立会いの下開示する。カルテレビュー形式で閲覧する場合は、事務課（医療情報管理担当）に依頼し、会議室に電子カルテ閲覧の環境を設置する。病院職員が操作し、指定の記録、あるいは診療内容について開示する。 ・医療スタッフの閲覧については「診療記録・情報管理規程」に基づき手続きを行う。 ・患者側からの個人情報開示の請求があった場合は、「個人情報開示・訂正等運用細則」に基づき手続きを行う。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	178 件
閲覧者別	医師	延	178 件
	歯科医師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
・ 指針の主な内容： 1. 当院における安全管理に関する基本的考え方 私たち教職員は、全ての行為に対して常に適度な緊張感を持ち、危機管理意識を維持し、安全な医療サービスを提供できるよう努める。 2. 医療安全管理委員会および当院の組織に関する基本的事項 (1) 医療に係る医療安全管理体制の確保及び推進を図るため、医療安全管理委員会を設置し、医療安全管理委員会の総括の下に、特定の事項を検討するため、各種の委員会を置き、詳細な運用に関しては別に定める。 また、院内感染対策、医薬品、医療機器、診療記録等、高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等、医療放射線の安全管理体制の確保については、院内感染防止対策委員会、医薬品安全管理委員会、医療機器安全管理委員会、診療記録等監査委員会、高難度新規医療技術評価委員会、未承認新規医薬品等評価委員会、医療放射線安全管理委員会と連携する。 (2) 医療に係る安全管理を行う部門として、医療監査部（医療安全対策課・医療安全調査課・院内感染対策室・放射線治療品質管理室・医薬品安全管理室・臨床研究監査室・医療機器安全管理室・医療放射線安全管理室）を置く。 (3) 副院長（医療安全担当）を医療安全管理責任者として配置し、医療監査部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する。 (4) 医療安全に係る企画立案・評価・職員の安全管理に関する意識の向上等組織横断的に指導するため専任医療安全管理者（看護師）及び医療安全専任薬剤師を医療安全対策課及び医薬品安全管理室に配置する。 3. 職員に対する医療に係る安全管理のための研修に関する基本方針 職員に対する医療に係る安全管理のための研修を「医療安全・感染防止セミナー」と位置づけ全教職員に対して、以下の研修を実施し、研修実施後の学習効果測定を実施する。 なお、新規採用者、異動者、出向終了者、育児休業・産休から復帰した者及び臨床研修医に対する研修は別途実施する。 (1) 医療安全に関する事項 (2) 感染防止対策に関する事項 (3) 医薬品関連に関する事項 (4) 医療機器関連に関する事項 (5) 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等に関する事項 (6) 診療用放射線に関する事項 (7) 相互立入り、監査委員会からの意見に関する事項 (8) その他重大な事象が発生した事項 4. 当院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 (1) インシデント／アクシデント・合併症が発生した場合は、速やかにインシデント情報登録システム（EMI）に必要事項を入力し、医療監査部へレポートを提出する。提出されたレポートが診療録及び看護記録に基づき記載されているかを専任医療安全管理者が検証する。 (2) 医療監査部で検証・分析したアクシデント（レベル3b以上）事例、合併症事例について病院長へ速やかに報告し、医療安全管理委員会にて検討する。 (3) 重要と思われるレポートについては、レポート・事例検討会で検証し、医療安全管理委員会に諮る。さらに、対策が必要な事象については、RCA（根本原因分析）或いは調査委員会にて検証する。	

5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針

当該者の健康回復に全力を尽くすことを優先し、可及的速やかに上司に連絡し指導を仰ぎ、必要に応じて院内に緊急情報を発信し処置を行なう十分な人員を確保する。

その後、当該者や家族に説明する際は、言い訳や憶測を避け、事故の事実関係をできるだけわかりやすく、正確に説明する。さらに、重要事象は、原則として24時間以内に事故調査委員会を立ちあげ、事実関係をできるだけ正確かつ時系列に整理する。

6. 医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本方針

(患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む)

医療安全対策マニュアルは、当院のホームページ及び病院情報システム端末に掲載し、いつでも情報が取得できる環境を構築し公開する。

また、患者からの医療の安全管理及び安全対策等についての質問等があれば積極的に情報を開示する。

7. 患者からの相談への対応に関する基本方針

患者・家族からの相談に適切に応じる体制を確保するために、総合相談室に相談窓口を設置し、安全管理体制の確保について、関係部署に改善等の指導をする。

8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針

(1) 各部署にリスクマネージャーを配置し、医療安全管理委員会で決定した医療安全に係る事項を所属員へ周知させる。

また、安全情報としてセイフティ・トピックスの発行並びに各種ガイドラインの策定を行い教職員に周知する。

(2) 病院の医療安全管理業務が病院長の下で、適切に実施されているか等について、東海大学医学部附属病院医療安全管理業務監査委員会による監査を受ける。

(3) 高難度新規医療技術の提供、未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等を決定する部門を医療監査部内に置き、その適否については、高難度新規医療技術評価委員会、未承認新規医薬品等評価委員会の要綱に基づき審査し、病院長が決定する。高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合には、関係学会から示される「高難度新規医療技術の導入を検討するに当たっての基本的な考え方」やガイドライン等を参考に実施する。

(4) 他の特定機能病院の管理者との連携による相互立入りを実施し、技術的助言等を受ける。

② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況

- ・ 設置の有無 (☒ 有 ☐ 無)
- ・ 開催状況：年 12 回
- ・ 活動の主な内容：

1. 委員構成 (委員：37名、事務局：3名、オブザーバー：1名)

医療監査部長 (委員長)、医療安全管理責任者、医療安全専従医師、専従医療安全管理者、医療監査部次長、院内感染対策室、専任院内感染対策責任者、放射線治療品質管理室、医薬品安全管理室、医薬品安全管理責任者、医療安全専従薬剤師、臨床研究監査室、医療機器安全管理室 (医療安全専任技師)、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理室 (医療安全専任技師)、医療放射線安全管理責任者、医師 (内科学系・外科学系・専門診療学系・総合診療学系)、臨床研修部、診療技術部、薬剤部、看護部、褥瘡対策委員会委員長、事務 (医療安全調査課、事務課 (総務、ファシリティ、医事・健診、医療情報管理))

2. 医療安全管理委員会の開催状況

実施：令和6年4月8日、令和6年5月13日、令和6年6月10日、令和6年7月8日、令和6年8月14日、令和6年9月9日、令和6年10月9日、令和6年11月11日、令和6年12月9日、令和7年1月15日、令和7年2月10日、令和7年3月10日

3. 主な内容

- (1) 提出されたインシデント／アクシデントレポートの検討
- (2) 医療に係る医療安全の諸規程の整備
- (3) 重大な問題が発生した事象に対する事故調査委員会の設置
- (4) 重要な対策が必要な事象に対する「RCA（根本原因分析）検討会」の実施
- (5) 医療安全・感染防止セミナーの企画、実施及びセイフティ・トピックスの発行
- (6) 職員研修実施後の学習効果測定の実施
- (7) 医療安全対策チーム設置の検討
- (8) 東海大学医学部付属病院機関への医療安全に関する周知事項の審議
- (9) リスクマネージャー会で検討する事項の審議及びリスクマネージャー会の実施
- (10) 医療安全対策マニュアル及び医療安全基本マニュアル（携帯版）の策定
- (11) 医療安全月間の企画
- (12) 院内感染防止対策委員会、医薬品安全管理委員会、医療機器安全管理委員会、診療記録等監査委員会、高難度新規医療技術評価委員会、未承認新規医薬品等評価委員会、医療放射線安全管理委員会等で策定される、院内感染対策、医薬品、医療機器、診療記録等、高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等、医療放射線の安全管理体制について連携する。
- (13) 厚生労働省への提出事象の分類
- (14) 厚生労働省への医療機器に関する提言事象の抽出
- (15) 前各号に掲げたもののほか委員長が必要と認めた事項

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年 3 回

・ 研修の内容（すべて）：

1. 医療安全の日セミナー（医療安全の日webセミナー）：令和6年4月9日（5月1日～6月30日）
「2023年度の総括と2024年度の感染対策」
「慶應義塾大学病院のインシデントから考える医療安全対策～他山の石として～」
2. 第1回医療安全・感染防止セミナー：令和6年6月1日～令和6年8月31日
「医療安全の基本的事項と医療法改正・特定機能病院承認要件の周知」
「身体拘束の最小化をめざして」
「個人情報の取り扱いについて2024」
「医薬品の安全使用について」
「悪質なクレームへの対応～カスタマーハラスメント～」
「2024年度感染対策に関わる重要課題について」
3. 第2回医療安全・感染防止セミナー：令和6年10月1日～令和6年12月31日
「医療用麻薬の管理オピオイド投与の注意点」
「医療機器の安全管理について」
「インスリン療法による入院糖尿病患者の血糖管理」
「放射線被ばくの“正当化”とその周辺」
「医療メディエーション実践編1」
「手指衛生における手荒れ対策／抗微生物薬適正使用の手引き」

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（☒有・☐無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. 各年度のレポート報告提出枚数

- 1) 令和4年度：5,790枚 2) 令和5年度：5,846枚 3) 令和6年度：5,873枚

2. 発生した事故等の医療安全管理委員会への報告

インシデント／アクシデント・合併症レポートは専従医療安全管理者がレポート取り扱い基準に従ってレポート内容の確認を行い、月別アクシデント・合併症レポート一覧表を作成している。医療監査部で一覧表事例の分析及び検証を行い、結果について医療安全管理委員会へ報告を行っている。また、アクシデント（レベル3b以上）・合併症事例、重大事象につながりそうな事例は病院長へ速やかに報告し、対応を検討、特に重要な事象はレポート・事例検討会に諮り、レポート・事例検討会で検討された対策案等を医療安全管理委員会へ具申している。

3. 事故等の収集・分析による組織としての改善策の企画立案及びその実施状況の評価と情報の共有

- (1) 月別にインシデント／アクシデントレポートを各事象（CV関連、気道関連、ドレーン関連、化学療法関連、医療機器関連、転倒・転落関連、医薬品関連）ごとに統計・解析し、医療安全管理委員会で審議し病院運営会議に諮り、各種会議体（診療科長会、病院運営連絡会、RM会）、セミナー等で注意を喚起している。
- (2) レポート・事例検討会で提案された対策案等を医療安全管理委員会で審議し、各分野の医療安全対策チーム（気道安全管理、CVC、ドレーン・チューブ類、転倒転落、肺血栓塞栓症、検査・手術等における薬剤の休薬、予期せぬ急変、救急カート運用、身体拘束・自己抜去防止、患者誤認防止）で対策案等を検討している。
- (3) 上記で検討された対策案等は、各種会議体（病院運営会議、診療科長会、RM会）、セミナー、セイフティ・トピックス等で周知している。

4. 重大医療事故発生時の病院管理者への報告及び再発防止策（背景要因・根本原因分析）

- (1) 重大な医療事故が発生した場合は、手順に従い、速やかに病院長に報告する。また、インシデント／アクシデントレポートとは別に、時系列の報告書（事例報告書）を24時間以内に提出させ、病院長へ報告している。
- (2) 事象に応じて、事故分析手法を用いた、事故調査委員会、事故検証委員会、事故外部評価委員会を立ち上げ、再発防止策を講ずる。

5. 診療記録等監査

診療記録等の記載から医療過程においてどのような影響があったか、診療記録等監査委員会で検証している。診療記録等監査委員会の統括の下に、インフォームド・コンセント分科会、診療記録検証分科会を置き、活動報告を受け、適切なインフォームド・コンセント及び診療記録等の記載実施について協議し、必要に応じて医療安全管理委員会へ報告を行っている。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
・ 指針の主な内容： 院内感染対策のための指針 2007年7月1日策定、2009年8月31日改訂、2014年5月20日改訂、2018年4月17日改訂、 2021年8月17日改訂、2022年4月1日改訂、2022年9月20日改訂、2023年8月22日改訂、 2024年4月1日改訂、2025年8月19日改訂 1. 院内感染対策に係る基本的な考え方 2. 院内感染のための委員会その他の組織に関する基本事項 3. 院内感染のための従事者に対する研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 当該指針の閲覧に関する基本方針 7. その他の医療機関内における院内感染対策の推進のための必要な基本方針 8. 感染対策に関する地域医療機関との連携	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： 1. 委員の構成（委員17名） 病院長等医療機関の管理者、診療部門・薬剤部門・臨床検査部門・洗浄滅菌消毒部門・給食部門・事務部門の各部門を代表する職員、感染症対策に関し相当の経験を有する医師等、委員長が必要と認めた関係者により構成される。 2. 主な内容 (1) 感染症の流行地域等の感染症情報の把握と提供に関すること (2) 院内感染発生の監視・疫学調査および情報の提供に関すること (3) 感染症発生の届出に関する業務およびその情報の保管に関すること (4) 病院環境汚染の把握、医薬品や医療機器汚染の監視・指導に関すること (5) 抗菌薬・消毒薬の使用状況の把握・適正使用の指導に関すること (6) 院内の感染対策や感染制御の立案・実行・評価に関すること (7) 感染症対策全般に関するコンサルテーションや指導・教育に関すること (8) 院内感染防止対策に係る経費算定・管理に関すること (9) 新興感染症に関すること (10) その他、病院長の指示する業務、あるいは委員会決定事項の遂行に関すること 3. 院内感染防止対策委員会開催状況 2024年4月16日、2024年5月21日、2024年6月18日、2024年7月16日、2024年8月20日、 2024年9月17日、2024年10月15日、2024年11月19日、2024年12月17日、2025年1月21日、 2025年2月18日、2025年3月18日、2025年4月15日、2025年5月20日、2025年6月17日、 2025年7月15日、2025年8月19日、2025年9月16日	

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 41 回
・ 研修の内容（すべて）： ●全体研修 ・ 医療安全感染防止セミナー：全3回 （DVD視聴による医療安全感染防止セミナー：全3回） ・ 院内感染対策に関するe-learning：全1回 ●研修内容 ・ 医療安全感染防止セミナー 1. 医療安全の日セミナー 「2023年度の総括と2024年度の感染対策の基本」 「慶應義塾大学病院のインシデントから考える医療安全対策～他山の石として～」 2. 第1回医療安全感染防止WEBセミナー 「医療安全の基本的事項と医療法改正・特定機能病院承認要件の周知」 「身体拘束の最小化をめざして」 「個人情報の取り扱いについて2024」 「医薬品の安全使用について」 「悪質なクレームへの対応～カスタマーハラスメント～」 「2024年度感染対策に関わる重要課題について」 3. 第2回医療安全感染防止WEBセミナー 「医療用麻薬の管理 オピオイド投与の注意点」 「医療機器の安全使用について」 「インスリン療法による入院糖尿病患者の血糖管理」 「放射線被ばくの“正当化”とその周辺」 「医療メディエーション実践編1」 「手指衛生における手荒れ対策／抗微生物薬適正使用の手引き」 ・ 院内感染対策に関するe-learning 1. 院内感染防止対策マニュアルについて 2. マニュアルの記載内容について 3. 基本的な感染防護 4. 消毒薬と消毒 5. 針刺し事故防止 6. 感染症状を有する職員への対応 ●職業種別教育実績 ・ 新人オリエンテーション ・ 研修医対象クルズス ・ 清掃業者対象セミナー ・ 看護師中途採用者オリエンテーション ・ 看護助手レクチャー ・ 各部署対象感染対策レクチャー等	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 病院における発生状況の報告等の整備 （1）感染症の院内における発生を迅速に把握できる方法を確立し、院内感染を未然に防ぐ、または蔓延を防止するために、リアルタイムに対策を立てられるようにする。 （2）感染症の発生の報告は、主治医および病棟医長・看護単位責任者から東海大学医学部付属病院感染症患者報告書にて、院内感染対策室を経由して病院長へ提出される。 （3）「感染症法」に規定される届出は最寄りの保健所長を経由して都道府県知事に届け出る。 2. その他の改善のための方策の主な内容 ・ 薬剤耐性菌発生時の病棟別・診療科別発生動向調査を行い、消毒薬・抗菌薬使用状況との解析によるフィードバック、担当医に対するコンサルテーション、病棟ラウンドを行う。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11 第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 40 回
・ 研修の主な内容： (1) 全職員に対する講義、医療安全・感染防止Webセミナー：全2回 「インスリン療法による入院糖尿病患者の血糖管理」 「医薬品の安全使用について」 「医療用麻薬の管理 オピオイド投与の注意点」 (2) 新規採用者《医師以外》に対する講義 医薬品の安全管理について 2024年4月1日 (3) 医師に対する講義 臨床助手・臨床研修医（麻薬・向精神薬・筋弛緩剤（毒薬）の取り扱いと薬剤部門の業務） 2024年4月2日 麻酔科研修医（中央手術室における麻薬・筋弛緩薬・向精神薬の管理について） 毎月1回 計12回 救命救急科研修医（救急救命士含む） 救命救急センターにおける麻薬・筋弛緩薬・向精神薬の管理 毎月1回 計12回 (4) 看護師に対する講義 看護部新人研修（医薬品の安全管理） 2024年4月20日 新人看護師向け医薬品の安全管理について（7B病棟, 中央手術室） 2024年4月9日, 11月16日 計2回 新人看護師向け病棟薬剤師業務の紹介（8B病棟, 9AB病棟） 2024年4月9日, 4月11日 計2回 看護師向け講義－インスリン・抗菌薬について－（9A病棟） 2024年6月7日 計1回 看護師向け講義－医薬品の安全使用－（8A病棟, 10B病棟, 13A病棟, 13B病棟） 2024年10月1日, 10月2日, 10月3日, 10月4日, 10月7日, 10月8日 計6回 放射線技師・外来看護師向け講義－救急カート・常備薬・ハイリスク薬・ハイアラート薬－ 2024年9月19日 計1回	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ・ 病棟・外来に定数保管されている医薬品の保管状況及び品質管理（年3回） ・ 医薬品情報の収集・管理・周知 周知した医薬品情報について医薬品安全管理委員会（月1回開催）に報告し周知状況を確認	

・未承認・適応外・禁忌等に該当する処方に関する情報
使用状況について医薬品安全管理委員会（月1回開催）に報告

・医薬品安全使用のための業務手順書の遵守状況の確認
手順書の遵守状況について病棟専任薬剤師によるチェックシートを用いた確認
医薬品安全管理室による医薬品安全ラウンドの実施

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有 無）
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：

【適応外使用】

- ・ アセリオ点滴静注：難治性未熟児動脈管開存症に対する内科的治療
- ・ ジャカビ錠：ステロイド抵抗性急性GVHD
- ・ ゴレドロン酸点滴静注：非感染性下顎骨骨髓炎
- ・ ソナゾイド注射用：リンパ管同定目的
- ・ ドルミカム注射液：治療抵抗性の症状・苦痛緩和目的の鎮静
- ・ メイロン静注8.4%：Impellaのパージ液
- ・ アフィニートル錠：難治性膝蓋部粘液型脂肪肉腫
- ・ ピトレシン注射液：婦人科手術における手術部位の出血量減少
- ・ ピトレシン注射液：敗血症性ショックにおける昇圧
- ・ カテコラミン製剤※の併用：重症患者の循環動態維持
（※アドレナリン、ノルアドレナリン、イソプレナリン、ドパミン、ドブタミン）
- ・ ハロペリドール、リスペリドン、クエチアピン、ペロスピロン：せん妄
- ・ オランザピン、アセナピン、アリピプラゾール、ブロナンセリン、バルプロ酸、トラゾドン、ミアンセリン、チアプリド：せん妄（精神科限定）
- ・ ジアグノグリーン注射用、インジゴカルミン注：婦人科がんにおけるセンチネルリンパ節の同定
- ・ 無水エタノール注：CRBSIの治療
- ・ ガンシクロビル点滴静注：CMV感染による虹彩炎・角膜内皮炎・網膜炎への眼内注射
- ・ 注射用メソトレキセート：眼内悪性リンパ腫への眼内注射
- ・ デキサート注射液：手術時の悪心・嘔吐
- ・ ソリリス点滴静注：腎移植後の非典型溶血性尿毒症症候群、血栓性微小血管症
- ・ リツキシマブBS点滴静注：TAFRO症候群を伴う特発性中心性キャスルマン病
- ・ ベバシズマブBS点滴静注用：小児高悪性度脳神経膠腫

【未承認薬剤】

- ・ Omegaven：短腸症候群を含む腸管不全患者の静脈栄養関連肝障害と栄養状態の改善

【院内製剤品】

- ・ ガンシクロビル点眼液：CMV感染による虹彩炎・角膜内皮炎治療

・ その他の改善のための方策の主な内容：

- ・ 薬剤師は内服・注射調剤、病棟業務等において未承認・適応外・禁忌医薬品の使用を把握した場合は、院内の情報端末にデータを登録する
- ・ 医薬品安全管理室は未承認・適応外・禁忌医薬品の使用状況を把握・管理し、医薬品安全管理委員会（月1回）へ報告する
- ・ 未承認新規医薬品等の提供について管理部門の業務手順書に、適応外使用について審査対象とするか「適応外使用を行う医薬品のリスク分類表」を制定し、申請の振り分けを行う。
- ・ がんゲノムプロファイリング検査を行ない、エキスパートパネルの結果、推奨治療とされた適応外使用については、エキスパートパネルの結果報告書を添付することで、科学的妥当性が判断されたものとする。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 550 回
・ 研修の主な内容： 1) 2024年度上半期 第1回医療安全・感染防止Webセミナー『医療機器の安全使用について』 2024. 10. 1～2024. 12. 31（期間延長含む） 計2470名 2) 各医療機器の取扱い研修（病棟・各部門等）550回 計4809名 ＜定期研修 指定8機種＞：29回/2174名 補助循環装置（ECMO・IABP・IMPELLA）、人工呼吸器、除細動器、閉鎖式保育器、血液浄化装置、 医用X線CT装置、MRI装置、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置 ＜新規導入機器研修＞：234回/1859名 内視鏡装置、ハイフロー[®]-機、超音波診断装置、生体情報モニタ、人工呼吸器、補助循環装置、 高周波凝固切開装置、X線透視装置、超電導磁気共鳴装置など ＜異動者・新任者・その他研修＞：287回/776名 輸液ポンプ・シリンジポンプ、ネーザルハイフロー、超音波診断装置、生体監視モニタ関連、 体外式ペースメーカー、呼吸療法機器、病理検査機器、生理検査機器、眼検査機器、内視鏡関連機器、 リハビリ治療機器、内視鏡装置など	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 （有・無） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 1) 人工心肺装置及び補助循環装置：年1回実施 2) 人工呼吸器：年1～2回実施 3) 血液浄化装置：年1～2回実施 4) 除細動装置：年1回実施 5) 閉鎖式保育器：年1回実施 6) CTエックス線装置（医用X線CT装置）：年1～2回実施 7) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器）：年4回実施 8) 診療用放射線照射装置（腔内照射装置）：年4回実施 9) 磁気共鳴画像診断装置（MRI装置）：年2回実施 10) その他医療機器（ポンプ関連等）：年1回実施 点検内容：動作確認、精度確認、摩耗・損耗確認、安全機構確認、バッテリー及びパーツ交換	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有・無）	

- 1) PMDA・医療機能評価機構、メーカーからの安全自主回収情報を関連部署と共有し、毎月開催の医療機器安全管理委員会で定例報告。
- 2) 医療機器関連のインシデント・アクシデント事例を抜粋し、各病棟への医療機器ラウンド時に情報共有実施
- 3) 臨床工学技士が医療安全に関わっている各病院において医療機器に係る情報交換の実施

・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：

- *（目的外使用）シングルルーメンカテーテル：「フォガティカテーテル」
1歳以下の新生児の片肺挿管の際に使用。
- *（目的外使用）血管内ステントおよびバルーンカテーテル：
アブレーション治療にて発生する「肺静脈狭窄」の治療に使用。（元は心血管への使用）
- *（目的外使用）冠動脈用ガイドワイヤー：「Astato XS40」
TAVIの際に、人工弁輪に切れ目を入れるために使用。
- *（目的外使用）メッシュ式ネブライザー：エアロジェンソロ
人工呼吸器使用中にメッシュ式ネブライザーを使用する。

・ その他の改善のための方策の主な内容：

- 1) 医療機器に関わる「医療安全対策マニュアル及び基本マニュアル（携帯版）」の情報更新。
- 2) 医療機器の安全管理を推進するため、毎月1～2病棟（1病棟あたり/年2回実施）において医療機器の安全管理に関わるラウンドおよび生体情報モニタ管理に関わるラウンドを行い、機器の管理状況や使用方法の確認、医療機器に関する情報提供（モニターアラーム解析）を実施。また、医療機器に関する相談などを併せて実施。
- 3) 医療安全NEWSの発行による新規導入機器に関する研修についての全職員への周知を実施。
- 4) 既存の医療機器における取り扱い説明書を院内PCのホームページへ掲載（適宜更新している）し、いつでも確認できる状況を確立している。
- 5) 医療機器の安全使用のために、普段使用頻度が低い医療機器を抜粋し、動画を使用した資料を作成し、スタッフのみが閲覧できるTeamsへ掲載し、周知を図っている。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有 無
・ 責任者の資格 (医師) 歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療監査部を設置し、医療安全担当副院長が医療安全管理責任者として配置。 医療安全管理委員会は、医療監査部長が委員長を務め、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者は委員となり、委員会にて活動報告を求めている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (9名) ・ 無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品安全管理責任者は、医薬品に関する情報の収集・整理・周知に関する業務を行うため、医薬品安全管理室に医療安全専従薬剤師を置く。医療安全専従薬剤師はDI室の薬剤師と連携をとる。 ・ 医薬品の添付文書の情報のほか、医薬品製造業者、行政機関 (PMDA 等)、学術誌等から情報を広く収集し整理する ・ 院内で発生した医薬品に係わる副作用情報を積極的に収集し、評価するとともに一元的に管理する ・ 医薬品に関する情報の周知は薬剤部薬剤科 DI 係より、各部門、各職種へ病院情報システム、紙媒体などを通じて迅速に提供・周知を行う ・ 医薬品安全性情報等のうち、迅速な対応が必要となるものを把握した際は、当該医薬品を処方した医師及び投与された患者を速やかに特定し、必要な措置を迅速に講じる ・ 薬剤部薬剤科 DI 係より発信された情報は院内ポータル掲示板にて常時閲覧可能とする ・ 病棟専任薬剤師と薬剤部薬剤科 DI 係の薬剤師が必要に応じカンファレンス等を行い病棟専任薬剤師が病棟薬剤業務を実施するにつき必要な情報を提供する ・ 医薬品安全管理責任者は、医薬品安全管理委員会 (月 1 回開催) に薬剤部薬剤科 DI 係より報告された医薬品情報および副作用情報の周知状況の確認を行う (前年度件数) 薬事委員会採用情報 10 回 薬事委員会試用情報 9 回 薬事委員会採用中止情報 10 回 医薬品・医療機器等安全性情報 9 回 医療安全情報 11 回 医薬品回収・品薄情報 293 回 DI ニュース 25 回 副作用関連情報 (院内副作用報告一覧) 12 回 薬発 等 22 回 その他 (販売中止、オーダ停止、オーダ開始など) 10 回 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 ・ 薬剤師は調剤時、病棟薬剤業務等で未承認・適応外・禁忌等に該当する処方を把握した場合は院内の情報端末にデータ登録する。担当者は添付文書、ガイドライン、文献等から、有効性、安全性に関する情報を収集し、医薬品安全管理委員会に報告し、必要に応じ適応外使用申請を依頼する。	

- ・管理部門は未承認新規医薬品等（適応外使用も含む）の使用について、適応外使用医薬品については「適応外使用を行う医薬品のリスク分類表」より振り分けを行い、必要に応じ適応外使用申請を依頼する。
- ・医薬品安全管理責任者は、未承認等の医薬品に関しその使用状況の周知を行う。

・担当者の指名の有無 ☒ 有 ☐ 無

・担当者の所属・職種：

（所属：薬剤部薬剤科 医療監査部医薬品安全管理室付 ， 職種 薬剤師 ）

（所属：薬剤部薬剤科 医療監査部医薬品安全管理室付 ， 職種 薬剤師 ）

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

☒ 有 ☐ 無

- ・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ☐ 有 ☒ 無
- ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：
：インフォームド・コンセント分科会を定期的に開催し、テーマを決めて検証を行っている。検証結果で改善すべき点が見受けられた診療科については、改善指摘文書を発行し、回答書の提出を求めている。
また、IC用紙の記載不備の点検結果を科別に集計し、診療科長会にて周知・指導を行っている他、今期は次の点について「診療記録等監査委員会」に報告し、診療科長会等で周知・指導を行っている。

①運用不備徹底および再周知

- ・前回の病院機能評価にて指摘を受けた『具体的な診療行為別の同席基準』に対し、インフォームドコンセントのグレード分類別同席基準を作成した。
- ・説明・同意書の同席率について定期的に調査を行い各部署へフィードバックした。また、多職種含めた同席率向上のため、診療科長会にて継続的にアナウンスした。グレード1（最上位）の説明同意には看護師他職種の同席を条件としている。
- ・昨年度の医療法第25条第3項立入りにて指摘を受けた、運用フローに明記されている「意思決定能力がない患者で代諾者がいる場合は同席必須」について、説明同意書の運用マニュアルへ追加した。
- ・ACPにおける「IC」および「患者・家族の訴え」のタグの活用について、説明同意書の運用マニュアルの別添として追加した。
- ・医学的な意見に反して退院を強く希望する患者の記録について、病院倫理委員会へ審議依頼を行い、『対応ポイント』作成となった。また、医療安全基本マニュアル、勤務医マニュアル、診療記録・情報管理規程に追加となった旨、診療科長会にて周知した。
- ・既存する説明同意書のフォーマットの見直しを行い、記載不備が多い同意書のチェック項目等、ひな形を見直した他、同一医療行為に対する同意書の書式統合について、関係する部門と連携し改訂を行った。
- ・診療記録のICタイトル使用に際し、記載すべき内容・項目を網羅したテンプレートの作成を行い、診療科科長会にて周知した。
（再周知）
- ・説明同意書の患者サイン欄空欄の状態での医療行為を実施した症例増加に伴い、患者に説明同意書を渡す際は、署名及び次回持参についてアナウンスする旨を周知した。また、各職種が医療行為実施の際に、スキャン確認だけでなく、記載漏れを防ぐよう署名確認も行うよう指導した。
- ・「医療・ケアにおける説明と同意について」の病院HP掲載に伴い、医師全員が統一した認識で診療を行うよう、診療科長会にてアナウンスした。

・スキャン漏れ防止と付箋による真正性・見読性の欠落防止について、看護部へ再周知した。

②事例検証結果を基に該当診療科へ改善指摘

・患者本人に意思決定能力がないが、代諾者がいる場合は、説明する医師以外のスタッフが必ず同席するよう指導した。

③看護部への改善指摘事項

・説明時に同席できなくても、後刻、補足説明や患者の理解度を確認した場合は、説明支援者欄に署名するよう指導した。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有 無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

1. 診療録等の記載状況を日々確認（質的点検）し、記載不備の記録については、その都度記載医に訂正を求めている。

2. 診療記録検証分科会を定期的に行い、1. の質的点検で抽出した問題事例の検証を行うほか、メール監査において毎月 2 診療科の診療記録検証を行い年間ですべての診療科の監査を行っている。

3. 事例検証結果について、今期は以下の内容を診療記録等監査委員会に報告し、該当部署に指摘・改善・周知を求めた。

① 診療記録の記載方法について、当院の規程に基づき記載するよう指導。

② 臨床研修医の記録について、指導医は迅速に漏れなくカウンターサインと指導内容を記載するよう指導。

③ 説明内容について、説明または同席した医師は、「インフォーム・ドコンセント」のアイコンから、テンプレートを用いて同席者・説明内容・患者の反応・理解度について経過記録に記載するよう指導。

④ 急変時「DNAR」という文言は使用せず、「EOL」アイコンから、終末期患者の急変時対応方法を具体的に記載するよう指導。

⑤ 術中に合併症が発生した場合、手術記録の「術中合併症」欄に記載するよう指導。

4. 事例検証の中で全科に共通する事項については、診療記録等監査委員会に報告し、医療安全セミナー、診療科長会等において周知・指導を行った。

① 看護記録量的監査について結果を看護部へフィードバックした。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有 無

・所属職員：専従（10）名、専任（1）名、兼任（10）名

うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（8）名

うち薬剤師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名

うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（0）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

- (1) 医療安全管理委員会の運営に関すること
 - ①医療安全管理委員会の資料及び議事録の作成と保存
 - ②その他医療安全管理委員会の庶務に関すること
- (2) 医療事故発生時の対応に関すること
 - ①事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び必要な指導を行う
 - ②患者及び家族への説明など事故発生時の対応状況について確認及び必要な指導を行う
 - ③事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認及び必要な指導を行う
- (3) 安全管理のための職員に対する教育、研修の企画・運営に関すること
- (4) 医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策に関すること
 - ①インシデント及びアクシデント発生時における情報の収集と分析
 - ②事故予防策、再発予防策の立案・評価及び見直し
- (5) 医療安全に係る連絡調整に関すること
- (6) その他医療安全対策の推進に関すること
- (7) 医療安全に関する官公庁への届出及び報告に関すること
- (8) 診療記録等の監査に関すること
- (9) 医薬品安全管理委員会の運営に関すること
- (10) 医療機器安全管理委員会の運営に関すること
- (11) 高難度新規医療技術評価委員会の運営に関すること
- (12) 未承認新規医薬品等評価委員会の運営に関すること
- (13) 医療放射線安全管理委員会の運営に関すること
- (14) 放射線治療品質管理室会議の運営に関すること

※診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例

- ・緊急再入院率（退院後 2 週間・6 週間以内・30 日以内）
- ・死亡退院患者率
- ・予定手術開始前 1 時間以内の予防的抗菌薬投与割合
- ・再手術率（術後 48 時間以内、術後 30 日以内）
- ・医原性気胸の発生率
- ・術後合併症発生率
- ・褥瘡院内発生率
- ・入院患者の転倒・転落発生率、治療を必要とする転倒・転落発生率
- ・術後の肺塞栓または DVT の発生率

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 9 件）、及び許可件数（ 9 件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有 ☐ 無 ）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ 有 ☐ 無 ）

・活動の主な内容：

- ・診療科の長から申請のあった申請内容を確認し、高難度新規医療技術評価委員会へ当該高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求める。
- ・評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請のあった診療科の長に対しその結果を通知する。
- ・導入後、5症例程度の手術記録、診療録などの記載内容を当該科の長より報告を求める。
- ・当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に及び術後に患者が死亡した場合、その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認する。
- ・当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、従業者の遵守状況の確認を行う。
- ・医療安全管理委員会と連携する。
- ・評価委員会に係る事務。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（44件）、及び許可件数（43件）

（うち医薬品37件、医療機器7件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）

・活動の主な内容：

- ・未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否を決定する部門を、医薬品は医薬品安全管理室、医療機器は医療機器安全管理室とし、未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する業務を処理する。
- ・診療科の長は、当該診療科において未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合には、あらかじめ、医薬品安全管理室または医療機器安全管理室に当該未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の申請を行う。
- ・医薬品安全管理室または医療機器安全管理室は、診療科の長から申請のあった申請内容を確認するとともに、未承認新規医薬品等評価委員会に対して、当該未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について意見を求める。
- ・医薬品安全管理室または医療機器安全管理室は、評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該未承認新規医薬品等の提供の適否等について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を通知する。
- ・医薬品安全管理室または医療機器安全管理室は、当該未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたかどうかに関し、定期的に診療録等の記載内容を確認する。
- ・医薬品安全管理室または医療機器安全管理室は未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたかどうか、従業者の遵守状況の確認を行う。
- ・医薬品安全管理室または医療機器安全管理室は、未承認新規医薬品等の使用の適否等についての

結果、及び未承認新規医薬品等規程に定める事項の従業者の遵守状況を病院長に報告する。 ・医療安全管理委員会と連携する。 ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有 ☐無） ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有 ☐無）
⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況
・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 882 件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 159 件 ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 ①診療科からの報告状況の確認及び確認結果の管理者へ報告 ②提出率を示し、報告状況が不十分な場合は、当該科の長を指導
⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況
・他の特定機能病院等への立入り（☒有）（病院名：北里大学病院、国立がん研究センター中央病院）・無） ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒有）（病院名：北里大学病院、国立がん研究センター中央病院）・無） ・技術的助言の実施状況 1. 【助言の詳細】 医療安全管理者が手術患者や ICU 入室患者などの事例を確認して必要時は関係者に事例報告を求めているということであるが、それと同時に報告基準を設けるなどして事例関係者が主体的に報告できる体制を検討してはどうか。 【助言への対応】 基本は、事例に関係した者が報告をすることが基本であり、予期せぬ急変事例や予定外に ICU 入室となった事例、あらゆる合併症について報告するよう繰り返し求めている。これに加え ICU 入室、手術事例のモニタリングの意味もあり、継続してモニタリングし月数例報告を依頼している。 2. 【助言の詳細】 臨床研修医からのインシデント報告が少なかった。臨床研修医は経験や知識の不足から多くのヒヤリハットを経験していると思われる。研修統括部門と共同したインシデントレポートを報告する意義の教育や、研修終了のための目標（ノルマ）としてのインシデントレポート報告数を設定 することを検討していただきたい。 【助言への対応】 臨床研修医からのレポート提出を促す為、臨床研修部会で臨床研修医のレポート推進の検討依頼や臨床研修医によるヒヤリハットや発見者としての事例を提示等の取り組みを行っている。

3. 【助言の詳細】

リスクマネージャー研修を行うことにより、医療安全の改善につながったことが評価できる評価指導の設定があると PDCA を回すことにつながると思うので検討いただきたい。

【助言への対応】

リスクマネージャー研修が医療安全の改善につながったのかの評価は、医療安全ラウンドによる評価、レポート提出等を基に評価し研修を企画する。

4. 【助言の詳細】

職員のワクチン接種歴・抗体価管理方法について、法人管轄のみで管理するのではなく、施設・職員双方で管理できる体制構築の検討が必要である。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

(患者相談窓口の設置状況)

- ・設置年月日：昭和54年4月1日
- ・窓口の名称：総合相談室
- ・相談に応じる時間帯：月曜日～金曜日9:00～15:00、土曜日(第2、第4を除く)9:00～12:00
- ・責任者職種：患者支援センター所長／医師
- ・対応職員：患者支援センター総合相談室 社会福祉士

(窓口の活動 令和7年1月22日 「麻薬管理の徹底について～麻薬事故を起こさないために～」に関する患者への明示)

- ・明示している場所：東海ホール(初診受付横 掲示版)、総合相談室前
- ・明示内容：活動の趣旨、設置場所、責任者、担当者、対応時間

(窓口の活動に関する規約の整備状況)

- ・規約の整備(平成15年4月1日)

(相談により患者や家族が不利益を受けないような適切な配慮)

具体的な配慮の状況

*プライバシーの保護、匿名での相談及びご意見箱の設置(無記名での投書を可能としている)

(窓口以外の苦情相談の受付方法)

- ・電話、投書箱、インターネット相談の実施

*電話相談：総合相談室、当該部署で受けた内容を記録用紙あるいは任意の用紙に記載している

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

- ・医療法に基づく周知を求められた事項に関する e-learning を年1回実施
- ・医療安全の日セミナー／RM 会

<内容>

令和6年4月9日 「慶應義塾大学病院のインシデントから考える医療安全対策～他山の石として～」

令和6年5月31日 「画像等の所見確認について」

令和 6 年 7 月 22 日 「医療安全とノンテクニカルスキル」
令和 6 年 11 月 29 日 「アクシデント事例の共有と対策/急変対応と EOL (End of Life) 方針に
関して」
令和 6 年 11 月 29 日 「2024 年度医療安全に関する周知内容」
令和 7 年 1 月 22 日 「麻薬管理の徹底について～麻薬事故を起こさないために～」
令和 7 年 3 月 18 日 「使用や管理を特に注意する医薬品 ハイアラート薬について」

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：令和 6 年度 特定機能病院管理者研修[継続] (令和 6 年 12 月 9 日)
医療安全管理責任者：令和 6 年度 特定機能病院管理者研修[初回] (令和 7 年 1 月 15 日)
医薬品安全管理責任者：令和 6 年度 特定機能病院管理者研修[初回] (令和 7 年 1 月 15 日)
医療機器安全管理責任者：令和 6 年度 特定機能病院管理者研修[継続] (令和 6 年 12 月 12 日)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構の病院機能評価・一般病院 3 3rdG : Ver. 3.0 を受審し、2025 年 5 月 9 日認定。(条件付認定 (6 ヶ月))
(訪問審査実施日：2024 年 10 月 8 日～10 月 10 日)

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

当院ホームページで公表している。

・評価を踏まえ講じた措置

説明・同意の同席については、診療行為のグレード分類により同席基準を策定し、グレード 1 (高難度新規医療技術、医薬品未承認・適応外、重篤な合併症発生率 2%以上等)に該当する説明・同意書の定型フォーマットのタイトルに『G1』のマークを付け、同席必須であることを明確にした。特に『G1』症例は医師が説明時に看護師への同席依頼を徹底することを診療部長より全診療科に指導し、全例同席を目標としている。やむを得ず同席できない場合は、後日患者の反応・理解度等を確認し、看護記録に記載している。『G1』症例の同席サイン有無のモニタリング、説明・同意書の使用状況、記載漏れの確認を行い、集計結果を該当の委員会に報告。同席率が低い診療科及び同席時の看護記録記載がない症例があった場合は、インフォームド・コンセントの責任者(診療部長)より会議体にて報告し、改善指導を行っている。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容 (1) 日本国の医師免許を有する者 (2) 医学教育、学術研究及び診療に関して高い見識を有する者 (3) 本学の建学の精神に深く共鳴して、その具現を積極的に推進しようとする者 (4) 医療安全確保のために必要な資質及び能力を有する者 (5) 病院の管理運営に必要な資質及び能力を有する者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (☒ 有 ☐ 無) ・ 公表の方法 東海大学医学部附属病院ホームページに掲載

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	☒ 有 ☐ 無			
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (☒ 有 ☐ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (☒ 有 ☐ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (☒ 有 ☐ 無) ・ 公表の方法 東海大学医学部附属病院ホームページに掲載				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
森 正樹	東海大学医学部	○	「東海大学医学部附属病院病院長候補者の選考規程」の規定に基づき、医学部長は委員長を務める。	☒ 有 ☐ 無
飯田 政弘	学校法人東海大学 病院本部		「東海大学医学部附属病院病院長候補者の選考規程」の規定に基づき、委員に選出。	☒ 有 ☐ 無
原 義徳 (～12/31)	東海大学医学部付 属病院		〃	☒ 有 ☐ 無
中村 晃司 (1/1～)	東海大学医学部付 属病院		〃	☒ 有 ☐ 無

久保田 亘	一般社団法人平塚市医師会		「東海大学医学部付属病院病院長候補者の選考規程」の規定に基づき、医学部付属病院機関と利害関係のない外部有識者として委員に選出。	有・ ☒ 無
秋澤 孝則	一般社団法人秦野伊勢原医師会		〃	有・ ☒ 無
高橋 健一	伊勢原市保健福祉部		〃	有・ ☒ 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		○有・無	
・合議体の主要な審議内容 ①付属病院の事業計画の企画・立案に関する事項 ②付属病院の管理・運営に関する事項 ③付属病院の予算・決算に関する事項 ④付属病院の人事に関する事項 ⑤その他病院長が必要と判断した審議事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 診療科長会（構成員：医師；各診療科長等、看護師；看護単位責任者等、技術職員；各科長等、事務職員 他）での周知報告により、全体周知を図っている。また、必要に応じて病院本部会議、医学部協議会、医学科教授会等で報告するとともに、文書または、メール、Teams、Dr. JOY院内メッセージを活用し、周知を行っている。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・○無） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・○無）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
渡辺 雅彦	○	医師	病院長、病院本部副本部長（診療）
小川 吉明		医師	副院長、診療情報部長
小柳 和夫		医師	副院長、診療部長
鈴木 武志		医師	副院長、中央診療部長
永田 栄一郎		医師	副院長、診療協力部長
森 悟子		看護師	副院長、看護部長
守田 誠司		医師	医療監査部長、高度救命救急センター所長
小澤 秀樹		医師	臨床研修部長
新倉 直樹		医師	オンコロジーセンター所長
石本 人士		医師	総合周産期母子医療センター所長
山本 賢司		医師	患者支援センター所長
中村 晃司		事務職員	事務部長
下野 浩一		臨床検査技師	診療技術部長
鈴木 優司		薬剤師	薬剤部長
竹下 啓		医師	治験・臨床研究センター所長
飯田 政弘		医師・役員	病院本部副本部長、学校法人東海大学理事
大上 研二		医師・役員	病院本部副本部長（教育・研究）、学校法人東海大学理事
浅井さとみ		医師	病院本部副本部長補佐（感染対策）

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有・**無** ）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容

第 3 条 病院に病院長を置く。

- 2 病院長は、医療法第 10 条の規定に則ったものであるとともに、人格が高潔で学識に優れ、病院の管理・運営に関し識見を有するものとする。
- 3 病院長は、病院管理者として病院の業務を統括する。
- 4 病院長は、病院で行われる診療、教育及び研究について、その実施を許可し、実施状況について報告を求め、必要に応じて是正または停止を命ずることができる。
- 5 病院の管理・運営に関する重要事項を審議する機関として、病院運営会議を置き、病院長が議長となり議事を取りまとめる。
- 6 病院長の選任及び任期については、「東海大学医学部附属病院機関における病院長及び副院長の選任規程」の定めるところによる。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

副院長の役割

医療安全・病院経営・診療・渉外・診療協力・働き方改革・中央診療・情報システム
看護・患者支援・事務

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

病院部門 執行部研修会

〔開催時期〕 6 月

〔研修内容〕 現在策定中である、今後の社会変容を鑑みた各附属病院の将来構想、医学部、病院部門の中長期ビジョンの経過を教職員と共有し、将来構想へ反映させていくことを目指した研修。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					☒ 有 ☐ 無	
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： 医療安全管理業務（以下の(1)～(6)）の実施状況について管理者から報告等を求め、その適切性を判断する。また、必要に応じて、是正措置を講じるよう、理事長及び管理者に対し、書面により意見を表明する。 (1) 医療安全管理責任者の業務 (2) 医療安全管理部門の業務 (3) 医療安全管理委員会の業務 (4) 医薬品安全管理責任者の業務 (5) 医療機器安全管理責任者の業務 (6) その他医療安全管理業務に係る事項 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ☒ 有 ☐ 無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ ☒ 有 ☐ 無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ ☒ 有 ☐ 無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ☐ 無 ） ・ 公表の方法： 当院ホームページに委員名簿、委員の選定理由を掲載。 議事録は監査委員会終了後に掲載。						
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）						
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況	
長谷川 奉延	慶應義塾大学 名誉教授（医師） 柏たなか病院 ・ 病院長	○	慶應義塾大学病院医療安全管理部長、医療安全管理責任者を経験し、医療安全管理に長けている者。また、医療安全や質の向上を目的に医療安全文化の構築を推進する者	有・ ☒ 無	1	
内嶋 順一	神奈川県弁護士会（弁護士）		患者さん側の立場に立った弁護をされている者	有・ ☒ 無	1	
山口 育子	認定 NPO 法人 ささえあい医療人権センターCOML 理事長		患者と医療者の協働の実現により医療現場により良いコミュニケーションを築く活動をされている者	有・ ☒ 無	2	
石井 裕	伊勢原市保健福祉部長		行政としての立場及び一般の立場の代表者	有・ ☒ 無	2	

安田 聖栄	医療法人社団 あんしん会四 谷メディカル キューブ理事 長（医師） （元東海大学 医学部教授， 前東海大学医 学部附属病院 副院長）		東海大学医学部附属病院の 医療安全統括者を経験し、 医療安全管理に長けている 者	有・無	1
鈴木 孝良	東海大学医学 部附属八王子 病院 副院長・医療 安全対策部長 （医師）		東海大学医学部附属八王子 病院の医療安全統括者であ り、医療安全管理に長けて いる者。また附属病院機関 の医療安全に係る責任者の 代表者	有・無	1

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

病院長が議長となり、病院の各種事業について審議・報告する「病院運営会議」に、各種の職種が出席することとなっており、相互牽制する体制を敷いている。

・ 専門部署の設置の有無（ ☒ 有 ☐ 無 ）

病院を含む法人全体を担当する、以下の部署を設置している。

業務の監督体制 : 監査室

コンプライアンスに係る体制 : 理事長室（法務担当）

・ 内部規程の整備の有無（ ☒ 有 ☐ 無 ）

・ 内部規程の公表の有無（ 有 ☒ 無 ）

・ 公表の方法

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院外を含む法人全体の監督をする会議体として、理事会が開催されている。 理事には外部有識者を含み、メンバーは学校法人東海大学のホームページでも公開している ・ 会議体の実施状況（ 年 8 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有 無 ）（ 年 8 回 ） 病院長は病院本部副本部長を務め、理事会には、病院本部本部長/前病院長が業務執行理事として毎回参画している。 上記は当該理事の参画状況。 ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 無 ） ・ 公表の方法 学校法人東海大学のホームページに掲載			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の
情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（☒有 ☐無） ・ 通報件数（年 0 件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（☒有 ☐無） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（☒有 ☐無） ・ 周知の方法 ・ 医療安全対策マニュアル／医療安全基本マニュアルに医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口及び使用方法について掲載 ・ e-learning で周知 ・ 医療安全ラウンドで確認し、理解が不十分な場合はその場で指導を行い、責任者宛にフィードバックしている。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無

有・無

・ 情報発信の方法、内容等の概要

ウェブサイトでの情報提供：

病院の公式ウェブサイトを通じて、病院の概要・理念・基本方針・診療機能・診療実績・医師の専門性、最新の研究成果、先進医療の紹介、各種講座、講演会等の情報を発信している。

学会・研究会での発表：

医療従事者向けに、研究成果や臨床経験を共有する場として、学会や研究会で新しい医療技術や治療法、研究成果の発表を行うとともに研究論文等で情報発信を行っている。

地域連携：

高度な医療を担う病院として、最新の医療情報は、地域の医療機関（特に紹介・逆紹介を行う連携先の病院や診療所）と情報共有を行い、地域全体の医療レベルの向上に寄与している。

広報活動：

一般市民向けに健康に関する情報や医療機関の役割の理解を深めるため、「けんこうさろん」、「医学小知識」のを定期的な発行、市民公開講座、難病講座、認知症研修会、ピンクリボン活動、糖尿病週間、アルツハイマーデー、がんサロン等の広報活動を実施している。

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無

有・無

・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要

【他職種にて構成するチーム医療の体制について】

栄養サポートチーム・呼吸ケアチーム・緩和ケアチーム・褥瘡対策チーム・ハートチームなどが定期的に回診を行い、診療科・職種の枠を越え、患者のケアにあたっている。

また、口腔機能管理が必要な患者に対して、手術を実施する診療科と口腔外科が医科・歯科連携を行い、周術期等口腔機能管理を実施している。